

滋賀県子育てに関する県民意識調査

<平成 30 年度 調査結果報告書>

平成 30 年 12 月

第 1 章 調査概要

1. 調査目的

子育てを社会で支える施策を推進するにあたり、子育てに関する県民の意識や実態を把握し、今後の施策について検討するための基礎資料とする。

2. 調査期間

平成 30 年 9 月 19 日から 9 月 30 日まで

3. 調査設計

項目	内容
調査地域	滋賀県内全域
調査対象	県内在住の満 18 歳以上の個人
標本数	3,000 人
抽出台帳	選挙人名簿
抽出方法	層化二段無作為抽出法

4. 調査方法

郵送法 無記名方式

5. 調査項目

- (1) 少子化問題について
- (2) 子育てへの希望や意識について
- (3) 子育て支援サービスについて
- (4) 地域の子どもへの関わり等について
- (5) 企業の子育て支援について
- (6) 回答者自身、回答者の世帯のことについて

6. 標本構成

(1) 層化

県内の市町を7地域に分類し実施した。

地域名	市町名
大津地域	大津市
湖南地域	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀地域	甲賀市、湖南市
東近江地域	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖東地域	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖北地域	長浜市、米原市
湖西地域	高島市

(2) 標本数の配分

	推定母集団	抽出対象標本数	抽出標本数
大津地域	282,977	282,977	703
湖南地域	270,292	270,292	670
甲賀地域	120,664	120,664	299
東近江地域	190,314	190,314	471
湖東地域	128,855	128,855	320
湖北地域	130,796	130,796	324
湖西地域	42,855	85,710	213
計	1,166,753	1,209,608	3,000

※抽出方法について

- ・推定母集団は国勢調査人口（平 27 年 10 月 1 日）に基づく
- ・湖西地域 2.0、その他地域 1.0 のウェイト補正により抽出対象となる標本数を求め、必要となる標本数を抽出した
- ・標本数の抽出にあたっては各地域の市町ごとに国勢調査調査区人口と選挙人名簿投票区を照合させ、投票区ごとの標本数を抽出した。

(3) 調査票回収結果

7 地域計 3,000 票を配布し、回収した有効票は下記のとおりである。有効回収率は県全体で 54.6%であった。

地域名等	標本数	有効回収数	有効回収率
大津地域	703	390	55.5%
湖南地域	670	343	51.2%
甲賀地域	299	151	50.5%
東近江地域	471	253	53.7%
湖東地域	320	169	52.8%
湖北地域	324	185	57.1%
湖西地域	213	123	57.7%
無回答	-	24	-
計	3,000	1,638	54.6%

(4) 調査結果の集計表示方法

本調査では地域別に十分な集計分析が可能な回収数を確保するため、あらかじめ抽出時に人口比の低い湖西地域の抽出率を2倍に設定した。そのため集計結果の補正を行う必要があり、他地域の標本数に2倍の加重をかける規正標本数を求め集計、分析を行った。

	抽出 ウェイト	標本数	有効回収数	集計 ウェイト	規正標本数
大津地域	1/2	703	390	2	780
湖南地域	1/2	670	343	2	686
甲賀地域	1/2	299	151	2	302
東近江地域	1/2	471	253	2	506
湖東地域	1/2	320	169	2	338
湖北地域	1/2	324	185	2	370
湖西地域	1	213	123	1	123
無回答	-	-	24	2	48
計	-	3,000	1,638	-	3,153

7. 調査結果の留意点

- (1) 回答比率(%)は、すべて小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (2) 質問によって、2以上の回答を依頼した場合、比率の合計が100%を超える場合がある。
- (3) 回答比率(%)は、無回答を除いた回答者数を基数(N=Number of case、集計対象となる標本数)として算出しているため、質問によって異なる場合がある。
- (4) 集計表中、該当する数値が存在しない場合、「-」で表示した。
- (5) 本文中の表、グラフなどにおいて、選択肢が長い文章となる場合、簡略化していることがある。

第 2 章 調査結果

1 少子化問題についておうかがいします

問1 あなたは出生率の低下が進むことについてどのように思われますか（〇は1つだけ）

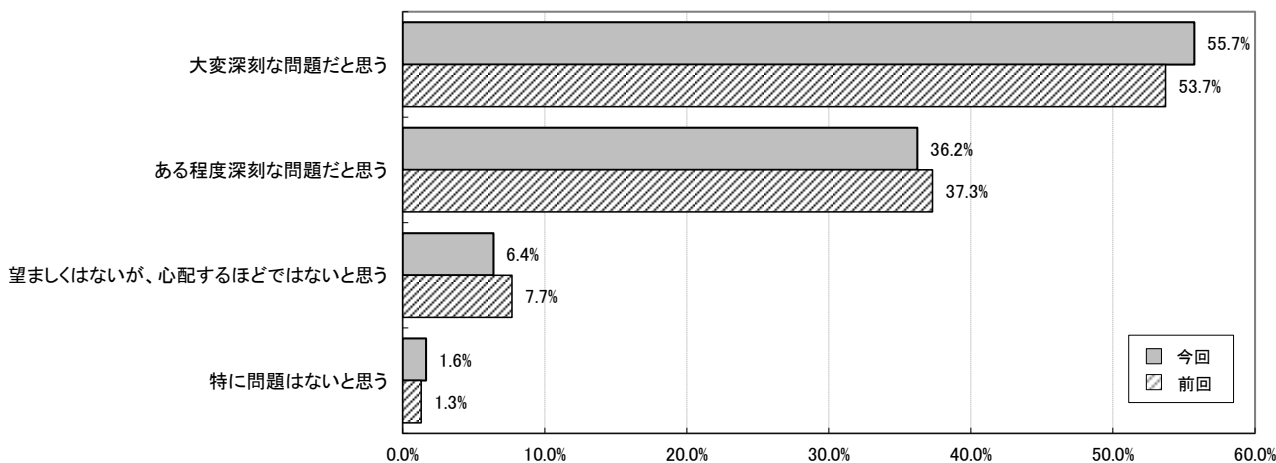
<選択肢>

- 1 大変深刻な問題だと思う
- 2 ある程度深刻な問題だと思う
- 3 望ましくはないが、心配するほどではないと思う
- 4 特に問題はないと思う

<単純集計>

「大変深刻な問題だと思う」が最も多く 55.7%、次いで「ある程度深刻な問題だと思う」が多く 36.2%である。程度の差はあるものの9割以上の方が深刻な問題と捉えている。

前回と比較すると、今回は「大変深刻な問題だと思う」が2.0ポイント増加し、「望ましくはないが、心配するほどではないと思う」が1.3ポイント減少しており、より深刻な問題と捉える人が増加している。



(今回：N=3,102 前回：N=3,125)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「大変深刻な問題だと思う」が最も多く、男性は60.5%、女性は52.4%、次いで、男女ともに「ある程度深刻な問題だと思う」が多く、男性は32.0%、女性は39.0%となっている。

●年代別クロス集計

18歳～20歳代は「ある程度深刻な問題だと思う」が最も多く、次いで「大変深刻な問題だと思う」が多くなっている。30歳代以上は、「大変深刻な問題だと思う」が最も多く、次いで「ある程度深刻な問題だと思う」が多くなっている。

	大変深刻な問題だと思う	ある程度深刻な問題だと思う	望ましくはないが、心配するほどではないと思う	特に問題はないと思う
男性 (N=1,325)	60.5%	32.0%	5.0%	2.5%
女性 (N=1,718)	52.4%	39.0%	7.6%	1.0%
18歳～20歳代 (N= 218)	40.4%	47.7%	9.2%	2.8%
30歳代 (N= 365)	49.3%	40.5%	8.5%	1.6%
40歳代 (N= 557)	56.2%	36.8%	6.1%	0.9%
50歳代 (N= 522)	57.5%	35.2%	6.1%	1.1%
60歳代 (N= 705)	57.0%	37.0%	4.8%	1.1%
70歳以上 (N= 701)	61.3%	29.4%	6.4%	2.9%

問2 問1で「1」～「3」のいずれかをお答えの方へ

深刻な問題、あるいは望ましくはない理由をお答えください（〇は1つだけ）

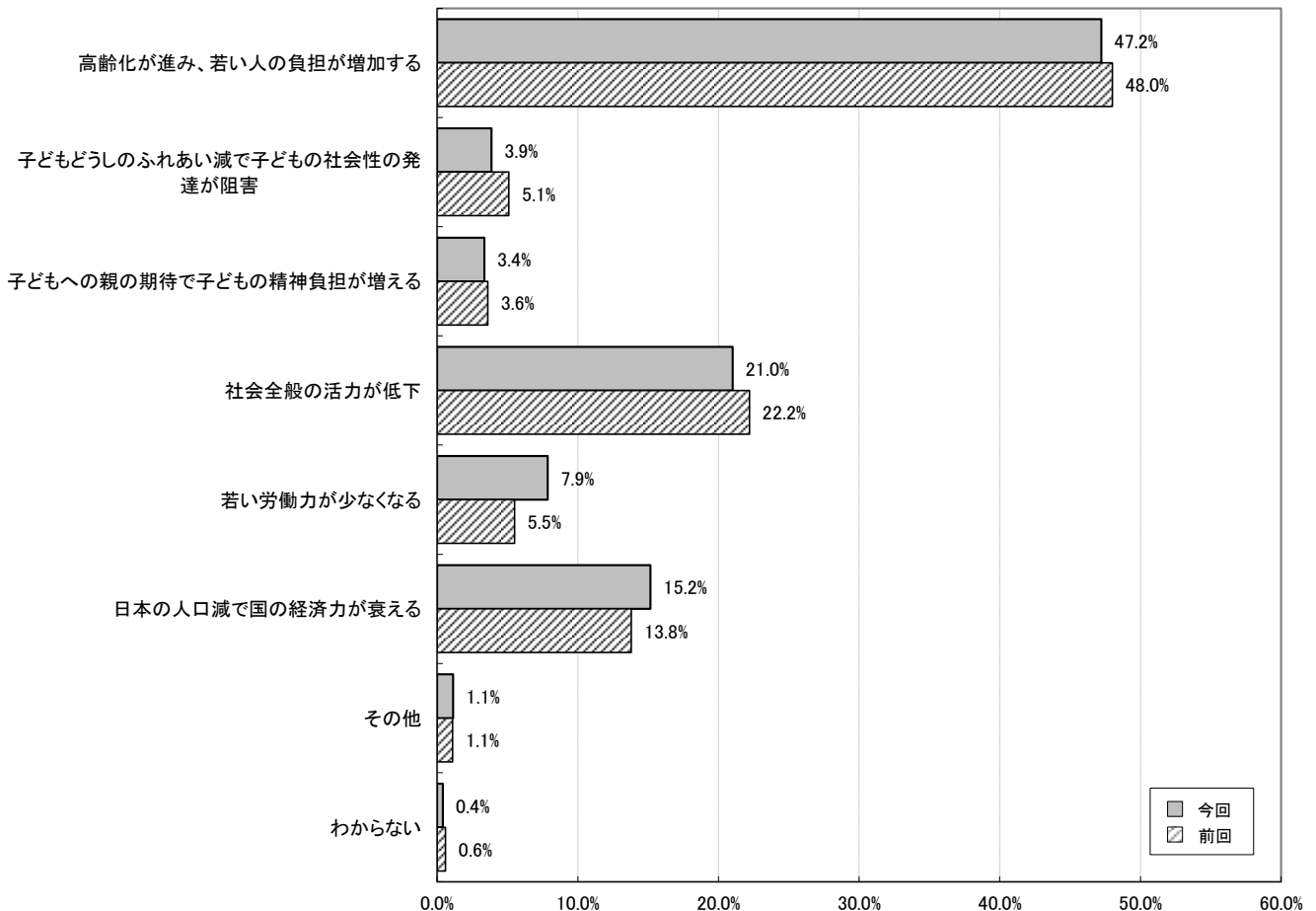
<選択肢>

- 1 高齢化が進み、若い人の負担が増加するから
- 2 子どもどうしのふれあいが減少し、子どもの社会性の発達が阻害されるから
- 3 子どもへの親の期待が大きくなり、子どもの精神的負担が増えるから
- 4 社会全般の活力が低下するから
- 5 若い労働力が少なくなるから
- 6 日本の人口が減って国の経済力が衰えるから
- 7 その他（具体的に)
- 8 わからない

<単純集計>

「高齢化が進み、若い人の負担が増加するから」が最も多く47.2%、次いで「社会全般の活力が低下するから」が多く21.0%である。少子化問題が深刻である理由としては、「高齢化が進み、若い人の負担が増加するから」と考えている人が概ね半数を占めている。

前回と比較すると、今回は「高齢化が進み、若い人の負担が増加するから」、「子どもどうしのふれあいが減少し、子どもの社会性の発達が阻害されるから」、「社会全般の活力が低下するから」などが減少した一方、「若い労働力が少なくなるから」、「日本の人口が減って国の経済力が衰えるから」が増加している。



(今回：N=2,980 前回：N=2,973)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「高齢化が進み、若い人の負担が増加するから」が最も多く男性は 39.2%、女性は 53.4%となっている。次いで、男女ともに「社会全般の活力が低下するから」が多く男性は 25.6%、女性は 17.4%となっている。

●年代別クロス集計

すべての年代で「高齢化が進み、若い人の負担が増加する」が最も多くなっている。次いで 18 歳～20 歳代、30 歳代は「日本の人口減で国の経済力が衰える」が多く、40 歳代以上は「社会全般の活力が低下する」が多くなっている。

	高齢化が進み、若い人の負担が増加する	子どもどうしのふれあい減少し、子どもの社会性の発達が阻害される	子どもへの親の期待で子どもの精神負担が増える	社会全般の活力が低下する	若い労働力が少なくなる	日本の人口減で国の経済力が衰える	その他	わからない
男性 (N=1,268)	39.2%	3.7%	1.9%	25.6%	9.0%	18.9%	1.4%	0.3%
女性 (N=1,653)	53.4%	3.8%	4.5%	17.4%	7.0%	12.6%	0.8%	0.5%
18歳～20歳代 (N= 202)	55.4%	5.0%	3.0%	12.4%	7.9%	15.3%	—	1.0%
30歳代 (N= 343)	56.3%	0.6%	4.7%	13.4%	9.0%	13.7%	1.7%	0.6%
40歳代 (N= 542)	53.7%	3.5%	1.8%	18.3%	6.6%	15.3%	0.7%	—
50歳代 (N= 506)	48.6%	3.0%	1.6%	20.9%	8.1%	15.8%	1.6%	0.4%
60歳代 (N= 691)	43.0%	5.5%	3.8%	25.8%	5.6%	14.3%	2.0%	—
70歳以上 (N= 662)	38.4%	4.4%	4.8%	24.8%	10.1%	16.3%	0.3%	0.9%

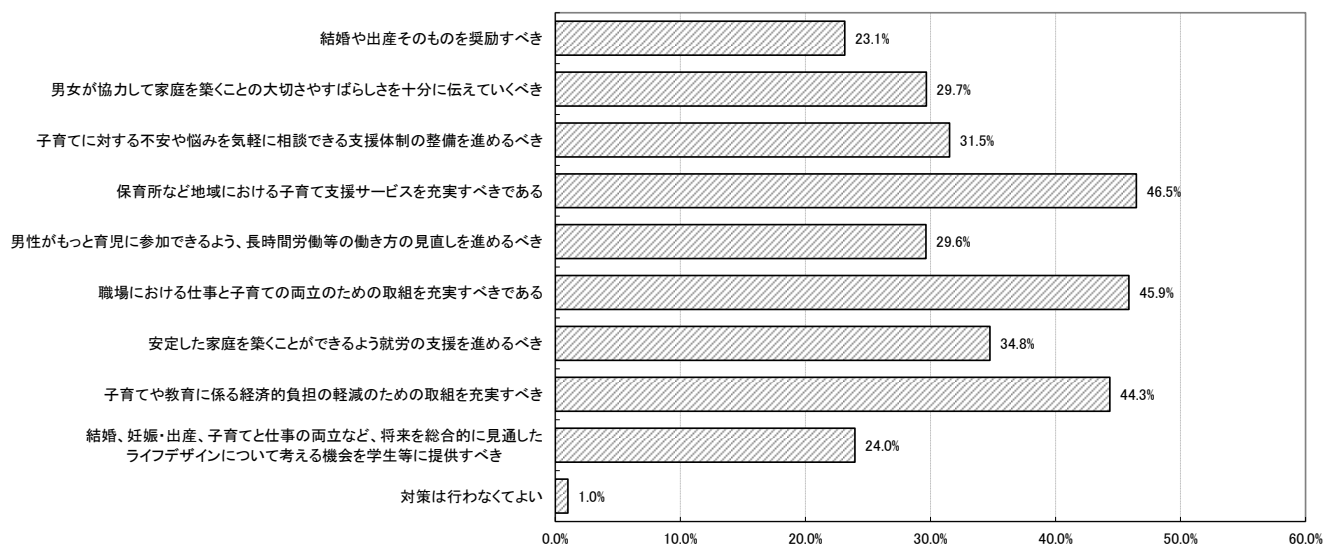
問3 あなたは少子化対策に関し、どのようなお考えをお持ちですか。(〇はいくつでも)

<選択肢>

- 1 結婚や出産そのものを奨励すべきである。
- 2 男女が協力して家庭を築くことの大切さやすばらしさを十分に伝えていくべきである。
- 3 子育てに対する不安や悩みを気軽に相談できる支援体制の整備を進めるべきである。
- 4 保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべきである。
- 5 男性がもっと育児に参加できるよう、長時間労働等の働き方の見直しを進めるべきである。
- 6 職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべきである。
- 7 安定した家庭を築くことができるよう就労の支援を進めるべきである。
- 8 子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべきである。
- 9 結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立など、将来を総合的に見通したライフデザインについて考える機会を学生等に提供すべきである。
- 10 対策は行わなくてよい。

<単純集計>

「保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべきである」が最も多く46.5%、次いで「職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべきである」が多く45.9%、次いで「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべきである」が多く44.3%であり、いずれも4割以上を占めている。



(今回: N=3,067)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男性は「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべき」が最も多く 45.1%、次いで「保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべき」が多く 44.2%となっている。

女性は「職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべき」が 51.3%、次いで「保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべき」が 48.4%と多くなっている。

●年代別クロス集計

18歳～20歳代、50歳代は「職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべき」が最も多く、次いで「保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべき」が多くなっている。30歳代は「保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべき」が最も多く、次いで「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべき」が多くなっている。40歳代は「職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべき」が最も多く、次いで「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべき」が多くなっている。

	結婚や出産そのものを奨励すべき	男女が協力して家庭を築くことの大切さを伝えていくべき	子育てに対する不安や悩みを相談できる支援体制の整備を進めるべき	保育所など地域における子育て支援サービスを充実すべき	長時間労働等の働き方の見直しを進めるべき	職場における仕事と子育ての両立のための取組を充実すべき	安定した家庭を築くことができるよう就労の支援を進めるべき	子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組を充実すべき	将来を総合的に見通したライフデザインについて考える機会を学生等に提供すべき	対策は行わなくてよい
男性 (N=1,298)	28.0%	25.3%	28.9%	44.2%	24.6%	38.9%	32.7%	45.1%	23.2%	1.6%
女性 (N=1,710)	19.5%	32.6%	33.5%	48.4%	33.6%	51.3%	36.6%	43.3%	25.1%	0.6%
18歳～20歳代 (N= 216)	22.7%	21.8%	29.2%	62.0%	42.1%	62.5%	37.0%	49.1%	24.1%	0.9%
30歳代 (N= 355)	25.9%	24.8%	24.5%	55.2%	42.0%	53.8%	30.7%	54.6%	19.4%	0.6%
40歳代 (N= 559)	22.2%	22.0%	27.9%	48.1%	33.5%	51.2%	31.8%	49.6%	21.8%	0.7%
50歳代 (N= 516)	23.1%	27.5%	34.1%	45.5%	29.8%	46.1%	35.7%	39.0%	27.7%	1.2%
60歳代 (N= 701)	19.7%	31.5%	34.0%	46.1%	21.8%	41.2%	37.1%	48.1%	24.3%	1.0%
70歳以上 (N= 688)	26.5%	40.8%	34.2%	37.5%	24.3%	36.9%	36.2%	33.3%	25.4%	1.5%

2 子育てへの希望や意識についておうかがいします

問4 実際にもつかどうかは別として、あなたにとって、理想とする子ども数は何人ですか。
「五人以上」の場合は具体的な人数をご記入ください。 (○は1つだけ)

<選択肢>

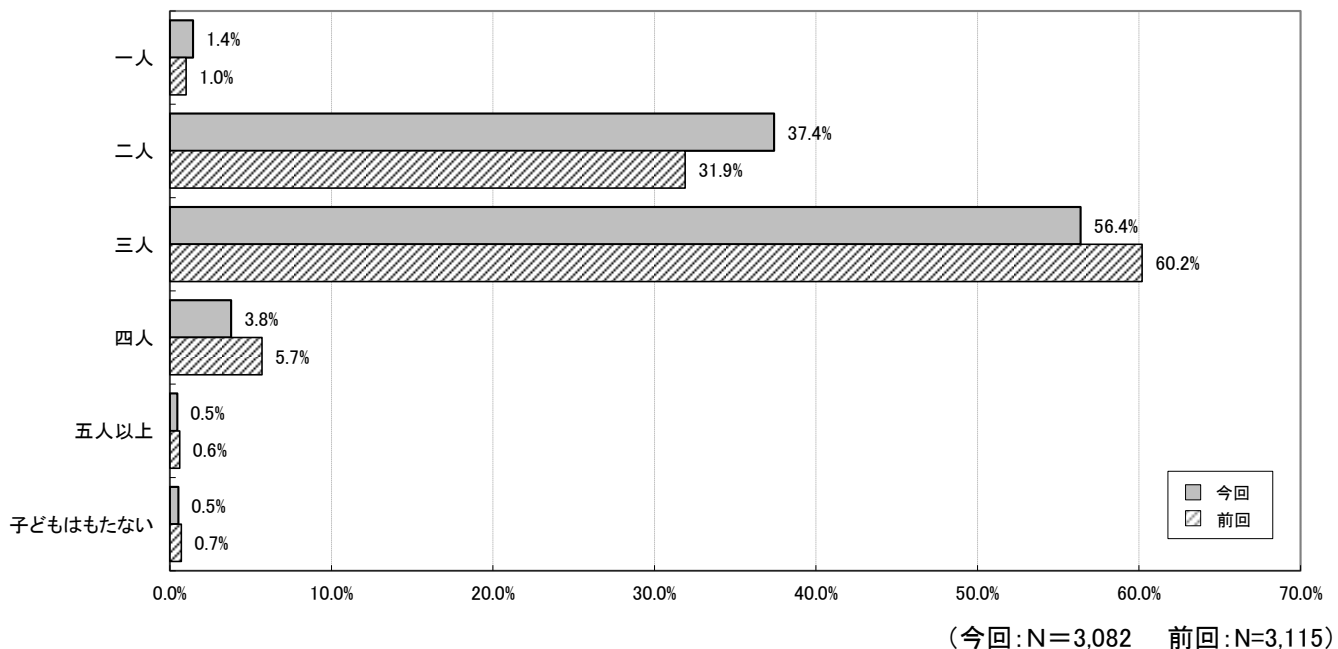
- | | |
|------|-----------------|
| 1 一人 | 4 四人 |
| 2 二人 | 5 五人以上→(具体的に 人) |
| 3 三人 | 6 子どもはもたない |

<単純集計>

「三人」が最も多く 56.4%、次いで「二人」が多く 37.4%である。「二人」または「三人」で9割以上を占めている。

前回と比較すると「三人」、「四人」が減少し、「一人」、「二人」が増加している。

なお、「五人以上」の具体的な人数の内訳は、5人が最も多かった。



<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「三人」が最も多く男性は 57.3%、女性は 55.6%となっている。次いで、男女ともに「二人」が多く男性は 37.2%、女性は 38.0%となっている。

●年代別クロス集計

18歳～20歳代は「二人」、30歳代から70歳代は「三人」が多くなっている。

	一人	二人	三人	四人	五人以上	子どもはもたない
男性 (N=1,310)	1.1%	37.2%	57.3%	3.4%	0.8%	0.2%
女性 (N=1,711)	1.5%	38.0%	55.6%	4.1%	0.2%	0.7%
18歳～20歳代 (N= 218)	4.6%	61.9%	28.0%	2.8%	1.8%	0.9%
30歳代 (N= 365)	2.7%	38.1%	54.5%	3.8%	0.3%	0.5%
40歳代 (N= 555)	1.8%	45.4%	49.5%	2.5%	-	0.7%
50歳代 (N= 515)	1.6%	38.8%	55.7%	3.3%	0.6%	-
60歳代 (N= 708)	0.6%	27.3%	66.1%	5.5%	-	0.6%
70歳以上 (N= 687)	-	32.6%	62.6%	3.6%	0.9%	0.3%

問5 あなたは実際には、何人の子ども（現在いる子どもを含めて）をもつつもりですか。
「五人以上」の場合は具体的な人数をご記入ください。（○は1つだけ）

<選択肢>

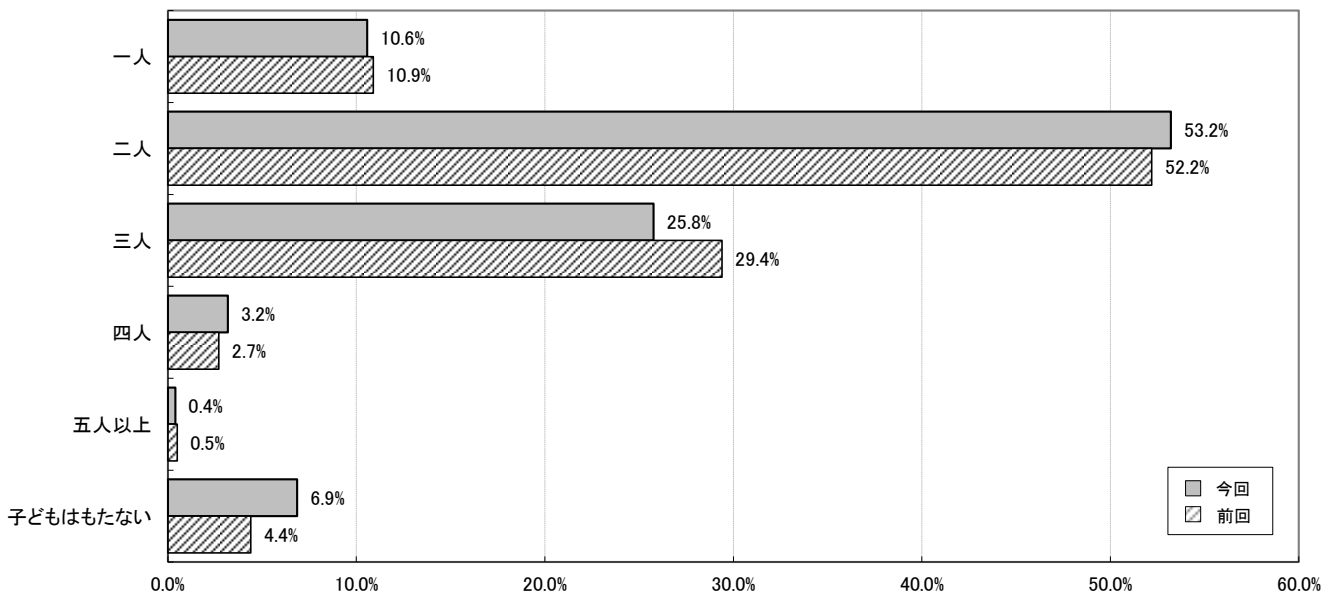
1 一人	4 四人
2 二人	5 五人以上→（具体的に 人）
3 三人	6 子どもはもたない

<単純集計>

「二人」が最も多く 53.2%、次いで「三人」が多く 25.8%である。理想とする子どもの人数は「三人」が最も多いが、実際には「二人」が最も多くなっている。

前回と比較すると「三人」が減少し、「二人」が増加している。

また、「五人以上」の具体的な人数の内訳は、5人が最も多かった。



(今回: N=2,988 前回: N=3,045)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「二人」が最も多く男性は 52.4%、女性は 54.1%となっている。次いで、男女ともに「三人」が多く男性は 27.7%、女性は 24.3%となっている。

●年代別クロス集計

すべての年代で「二人」が多くなっている。中でも 18 歳～20 歳代が最も多く 65.6%である。

	一人	二人	三人	四人	五人以上	子どもはもたない
男性 (N=1,285)	10.4%	52.4%	27.7%	3.1%	0.8%	5.6%
女性 (N=1,646)	10.6%	54.1%	24.3%	3.3%	0.1%	7.6%
18 歳～20 歳代 (N= 218)	8.7%	65.6%	15.1%	1.8%	0.9%	7.8%
30 歳代 (N= 363)	13.2%	58.7%	20.4%	2.2%	-	5.5%
40 歳代 (N= 547)	16.6%	53.4%	16.1%	1.5%	-	12.4%
50 歳代 (N= 510)	13.5%	48.8%	22.7%	4.1%	0.8%	10.0%
60 歳代 (N= 685)	6.9%	49.3%	34.3%	4.4%	-	5.1%
70 歳以上 (N= 633)	5.4%	53.9%	34.1%	3.8%	0.9%	1.9%

問6 【問4の「理想の子ども数」より問5の「実際にもつつもりの子ども数」が少ない方へ】
理想の子ども数より、実際にもつつもりの子ども数が少ないのはどのような理由からですか。
(〇はいくつでも)

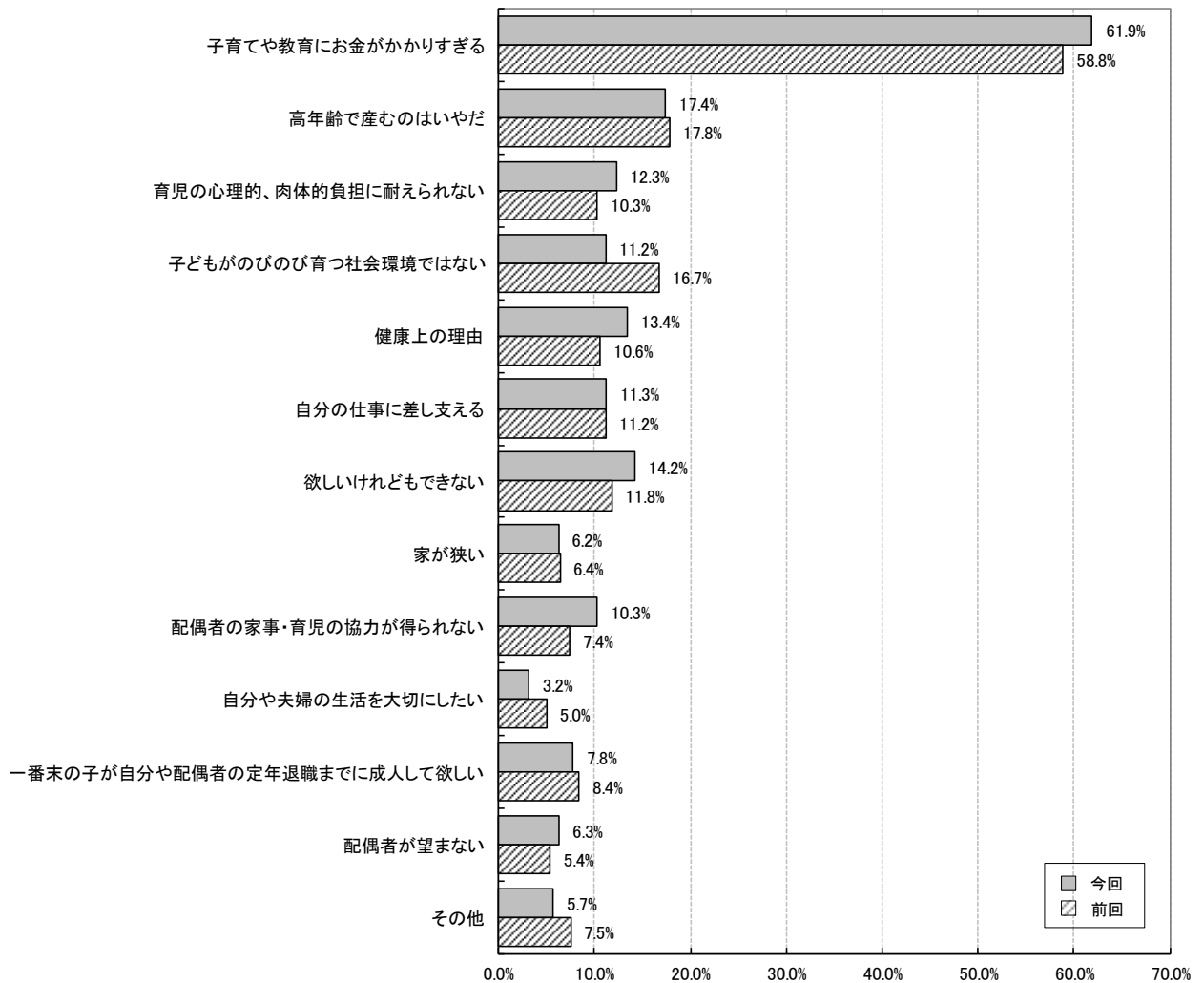
<選択肢>

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 子育てや教育にお金がかかりすぎるから | 8 家が狭いから |
| 2 高年齢で産むのはいやだから(年齢的な理由から) | 9 配偶者の家事・育児の協力が得られないから |
| 3 育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから | 10 自分や夫婦の生活を大切にしたいから |
| 4 子どもがのびのび育つ社会環境ではないから | 11 一番末の子が自分や配偶者の定年退職までに成人して欲しいから |
| 5 健康上の理由から | 12 配偶者が望まないから |
| 6 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから | 13 その他(具体的に) |
| 7 欲しいけれどもできないから | |

<単純集計>

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多く61.9%となっており他の選択肢と比べ大きな差がある。

前回と比較すると「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、「健康上の理由から」、「欲しいけれどもできないから」「配偶者の家事・育児の協力が得られないから」などが増加している。



(今回: N=1,154 前回: N=1,776)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多く男性は62.8%、女性は61.8%となっている。次いで男女ともに「高齢で生むのはいやだから」が多く、男性は17.2%、女性は17.4%となっている。

●年代別クロス集計

すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が多くなっている。次いで18歳～20歳代は「自分の仕事に差し支えるから」、30歳代、40歳代、は「高齢で産むのはいやだから」、50歳代「高齢で生むのは嫌だから」「ほしいけれどもできない」、60歳代は「健康上の理由から」、70歳代以上は「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」が多くなっている。

	子育てや教育にお金がかかりすぎる	高齢で産むのはいやだ	育児の心理的、肉体的負担に耐えられない	子どもがのびのび育つ社会環境ではない	健康上の理由	自分の仕事に差し支える	欲しいけれどもできない
男性 (N=489)	62.8%	17.2%	9.4%	12.9%	12.7%	8.6%	13.1%
女性 (N=639)	61.8%	17.4%	14.7%	10.3%	13.9%	13.8%	15.0%
18歳～20歳代 (N=42)	97.6%	19.0%	16.7%	4.8%	7.1%	23.8%	9.5%
30歳代 (N=149)	75.2%	22.8%	10.7%	9.4%	8.7%	16.1%	10.7%
40歳代 (N=247)	64.8%	30.0%	15.0%	8.1%	13.0%	9.7%	18.6%
50歳代 (N=205)	53.7%	17.1%	15.6%	15.1%	11.2%	7.3%	17.1%
60歳代 (N=267)	52.8%	8.2%	12.0%	9.7%	20.2%	9.7%	18.0%
70歳以上 (N=228)	61.4%	11.4%	7.0%	15.8%	13.2%	12.7%	5.7%
	家が狭い	配偶者の家事・育児の協力が得られない	自分や夫婦の生活を大切にしたい	一番末の子が自分や配偶者の定年退職までに成人して欲しい	配偶者が望まない	その他	
男性 (N=489)	8.0%	3.5%	3.7%	9.2%	8.2%	3.7%	
女性 (N=639)	5.2%	15.6%	3.0%	7.0%	4.9%	7.2%	
18歳～20歳代 (N=42)	-	2.4%	14.3%	9.5%	4.8%	-	
30歳代 (N=149)	9.4%	6.7%	6.7%	6.7%	9.4%	8.7%	
40歳代 (N=247)	2.4%	7.3%	1.6%	8.5%	1.6%	5.7%	
50歳代 (N=205)	10.7%	14.1%	2.4%	6.8%	8.8%	5.4%	
60歳代 (N=267)	3.4%	12.7%	2.2%	7.9%	7.9%	4.9%	
70歳以上 (N=228)	8.3%	10.1%	2.6%	7.9%	5.3%	5.7%	

問7・問8は現在、0歳から中学生までのお子さんがおられる方におたずねします。

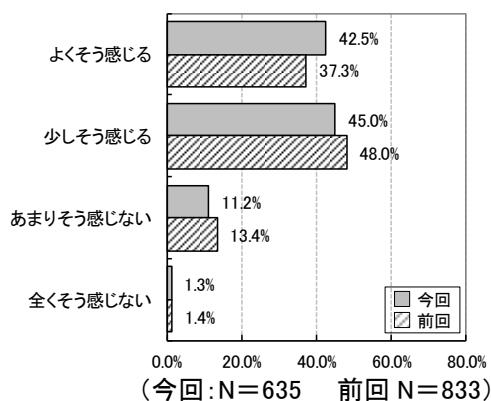
問7 あなたは、子育てや子育て環境に関する次のa～iそれぞれについて、どのように感じていますか。
(各々○は1つずつ)

<選択肢>

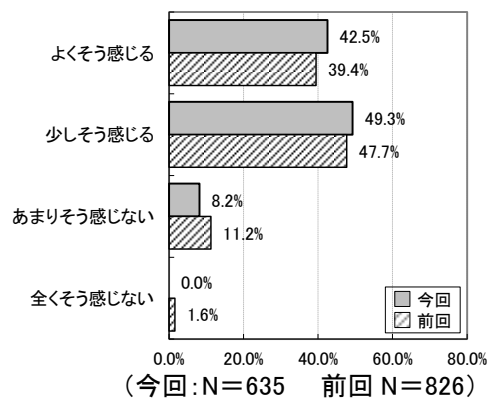
		そう感じる よく	少し そう感じる	あまり そう感じない	全く そう感じない
a.毎日が充実している	→	1	2	3	4
b.子育てが楽しい	→	1	2	3	4
c.出産・子育ては自分にとって大きなプラスだ	→	1	2	3	4
d.育児の自信がなくなる	→	1	2	3	4
e.自分のやりたいことができない	→	1	2	3	4
f.育児ストレスを感じることもある	→	1	2	3	4
g.子どもを虐待しているのではないかと感じることもある	→	1	2	3	4
h.現在の住宅は、子育てをするのに十分な広さ、ゆとりがない	→	1	2	3	4
i.公共施設や駅、量販店などの設備・構造が、子どもや子ども連れの親子にとって利用しにくい	→	1	2	3	4

<単純集計>

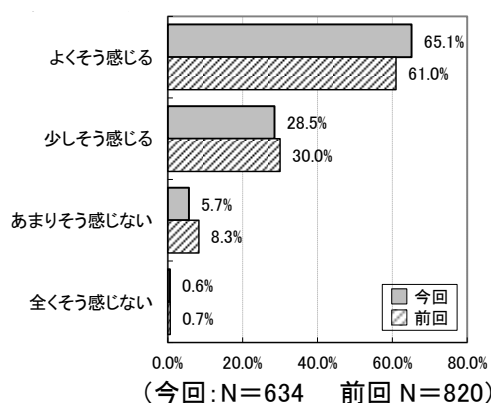
<a.毎日が充実している>



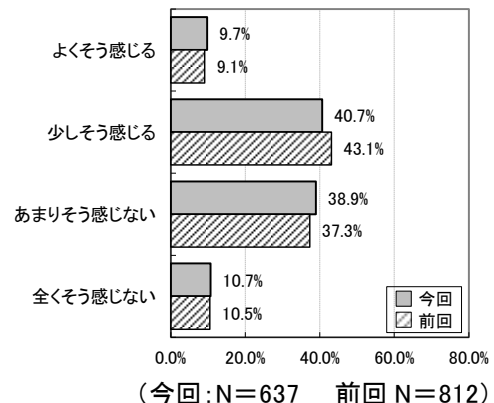
<b.子育てが楽しい>



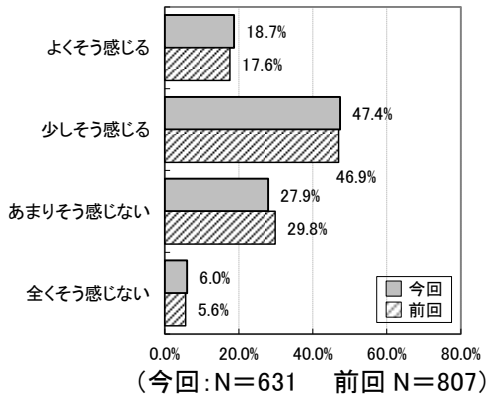
<c.出産・子育ては自分にとって大きなプラスだ>



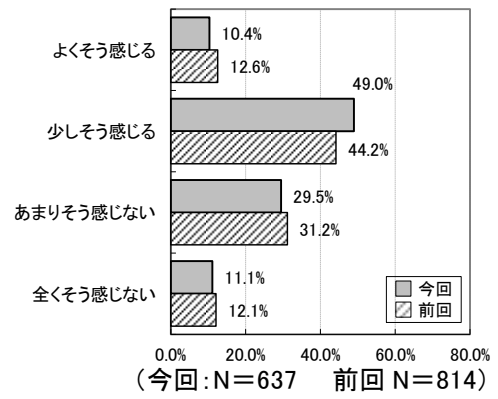
<d.育児の自信が無くなる>



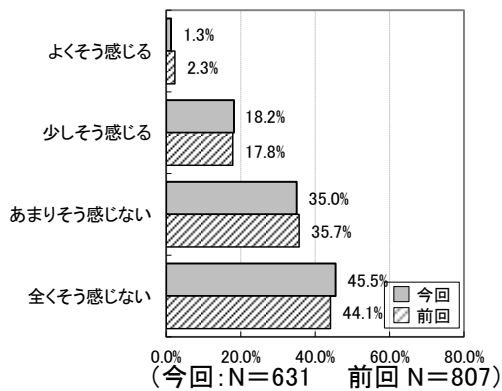
<e.自分のやりたいことができない>



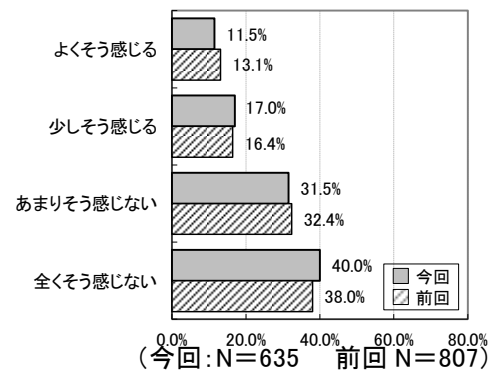
< f.育児ストレスを感じることもある>



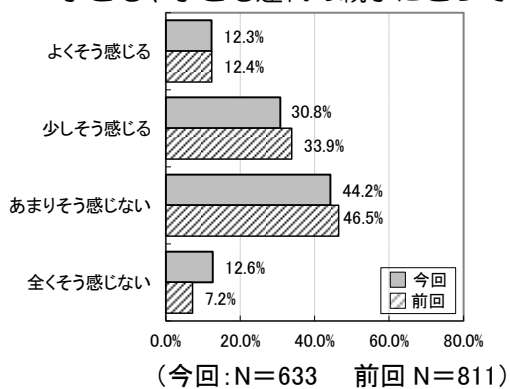
< g.子どもを虐待しているのではないかと感じることもある>



< h.現在の住宅は、子育てをするのに十分な広さ、ゆとりがない>



< i.公共施設や駅、量販店などの設備・構造が子どもや子ども連れの親子にとって利用しにくい>



<クロス集計>

●性別クロス集計

「a.毎日が充実している」では、男女ともに「少しそう感じる」が最も多く男性は48.5%、女性は43.0%となっている。次いで、男女ともに「よくそう感じる」が多く男性は44.3%、女性は40.8%となっている。

「b.子育てが楽しい」では、男女ともに「少しそう感じる」が最も多く男性は49.8%、女性は49.3%となっている。次いで、男女ともに「よくそう感じる」が多く男性は44.4%、女性は40.8%となっている。

「c.出産・子育ては自分にとって大きなプラスだ」では、男女ともに「よくそう感じる」が最も多く男性は63.7%、女性は65.9%となっている。

「d.育児の自信がなくなる」では、男性は「あまりそう感じない」が最も多く49.0%、女性は「少しそう感じる」が最も多く46.4%となっている。

「e.自分のやりたいことができない」では、男女ともに「少しそう感じる」が最も多く男性は49.4%、女性は46.1%となっている。

「f.育児ストレスを感じることもある」では、男女ともに「少しそう感じる」が最も多く、男性は43.7%、女性は52.8%となっている。

「g.子どもを虐待しているのではないかと感じることもある」では、男性は「全くそう感じない」が最も多く57.2%、女性は「あまりそう感じない」が最も多く37.5%となっている。

「h.現在の住宅は、子育てをするのに十分な広さ、ゆとりがない」では、男女ともに「全くそう感じない」が最も多く男性は41.4%、女性は39.4%となっている。

「i.公共施設、駅等の設備・構造が利用しにくい」では、男女ともに「あまりそう感じない」が最も多く男性は46.7%、女性は42.0%となっている。

		よく そう感じる	少し そう感じる	あまり そう感じない	全く そう感じない
a.毎日が充実している	男性 (N=262)	44.3%	48.5%	7.3%	-
	女性 (N=370)	40.8%	43.0%	14.1%	2.2%
b.子育てが楽しい	男性 (N=259)	44.4%	49.8%	5.8%	-
	女性 (N=373)	40.8%	49.3%	9.9%	-
c.出産・子育ては自分にとって大きな プラスだ	男性 (N=259)	63.7%	29.7%	5.8%	0.8%
	女性 (N=372)	65.9%	28.0%	5.6%	0.5%
d.育児の自信がなくなる	男性 (N=261)	5.7%	32.2%	49.0%	13.0%
	女性 (N=373)	12.6%	46.4%	31.9%	9.1%
e.自分のやりたいことができない	男性 (N=259)	13.5%	49.4%	30.9%	6.2%
	女性 (N=369)	22.5%	46.1%	25.5%	6.0%
f.育児ストレスを感じることもある	男性 (N=261)	3.8%	43.7%	39.1%	13.4%
	女性 (N=373)	15.0%	52.8%	22.5%	9.7%
g.子どもを虐待しているのではないかと 感じることもある	男性 (N=257)	-	11.3%	31.5%	57.2%
	女性 (N=371)	2.2%	23.2%	37.5%	37.2%
h.現在の住宅は、子育てをするのに 十分な広さ、ゆとりがない	男性 (N=261)	8.0%	19.9%	30.7%	41.4%
	女性 (N=371)	14.0%	14.6%	32.1%	39.4%
i.公共施設、駅等の設備・構造が利用 しにくい	男性 (N=259)	8.1%	28.2%	46.7%	17.0%
	女性 (N=371)	15.4%	32.9%	42.0%	9.7%

問8 子育てをしながら働く上での問題点はどのようなことだと思いますか。

(〇は3つまで)

<選択肢>

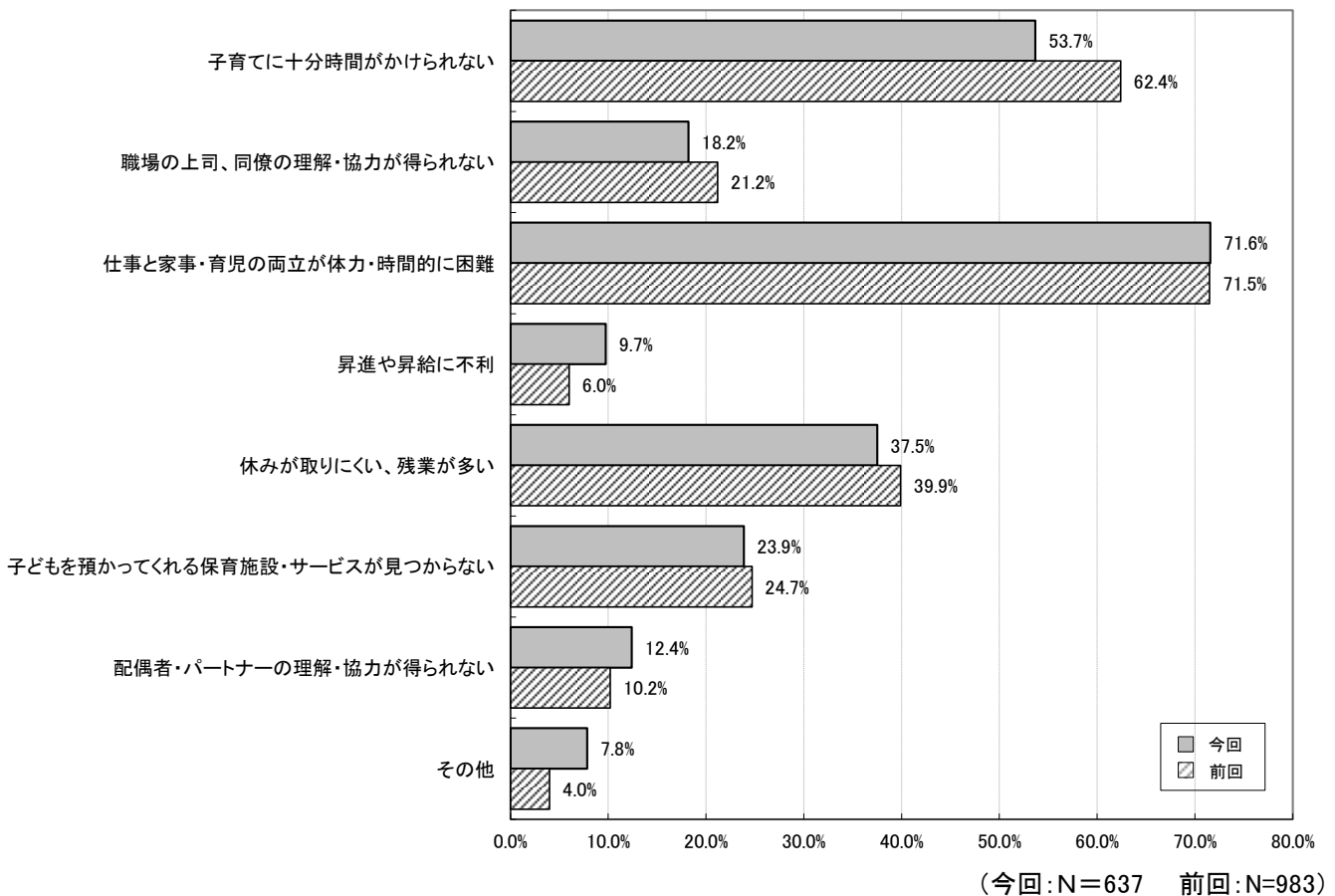
- 1 子育てに十分時間がかけられない
- 2 職場の上司、同僚の理解・協力が得られない
- 3 仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難
- 4 昇進や昇給に不利
- 5 休みが取りにくい、残業が多い
- 6 子どもを預かってくれる保育施設や保育サービスが見つからない
- 7 配偶者・パートナーの理解・協力が得られない
- 8 その他（具体的に)

<単純集計>

「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難」が最も多く71.6%と最も多くなっている。

前回と比較すると「子育てに十分時間がかけられない」、「職場の上司、同僚の理解・協力が得られない」、「休みが取りにくい、残業が多い」、「子どもを預かってくれる保育施設や保育サービスが見つからない」が減少しており子育て環境の改善がうかがえる。

しかし、「昇進や昇給に不利」、「配偶者・パートナーの理解・協力が得られない」は増加している。



<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難」が最も多く男性は65.0%、女性は75.9%となっている。次いで、男女ともに「子育てに十分時間がかけられない」が多く男性は52.7%、女性は54.0%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

「就学前の子ども」がいる人と「小・中学生の子ども」がいる人ともに「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難」が最も多く「就学前の子ども」がいる人は73.4%、「小・中学生の子ども」がいる人は69.7%となっている。次いで、「就学前の子ども」がいる人と「小・中学生の子ども」がいる人ともに「子育てに十分時間がかけられない」が多く「就学前の子ども」がいる人は53.8%、「小・中学生の子ども」がいる人は53.6%となっている。

●世帯構造別クロス集計

二世帯世帯と三世帯世帯ともに「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難」が最も多く二世帯世帯は71.1%、三世帯世帯は74.0%となっている。

次いで二世帯世帯は「子育てに十分時間がかけられない」が多く55.7%、三世帯世帯は「休みが取りにくい、残業が多い」が多く50.0%となっている。

	子育てに十分時間がかけられない	職場の上司、同僚の理解・協力が得られない	仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に困難	昇進や昇給に不利	休みが取りにくい、残業が多い	子どもを預かってくれる保育施設や保育サービスが見つからない	配偶者・パートナーの理解・協力が得られない	その他
男性 (N=260)	52.7%	18.8%	65.0%	8.5%	36.5%	19.2%	5.0%	6.2%
女性 (N=374)	54.0%	17.9%	75.9%	10.7%	38.0%	27.3%	17.6%	9.1%
就学前の子ども (N=320)	53.8%	23.1%	73.4%	10.6%	40.3%	27.8%	10.6%	7.5%
小・中学生の子ども (N=317)	53.6%	13.2%	69.7%	8.8%	34.7%	19.9%	14.2%	8.2%
二世帯世帯 (N=422)	55.7%	15.6%	71.1%	9.0%	35.5%	24.4%	14.2%	8.1%
三世帯世帯 (N= 96)	46.9%	25.0%	74.0%	8.3%	50.0%	10.4%	9.4%	6.3%

3 子育て支援サービスについておうかがいします

問9 あなたのお住まいの地域は子育てしやすい所だと思えますか。(〇は1つだけ)

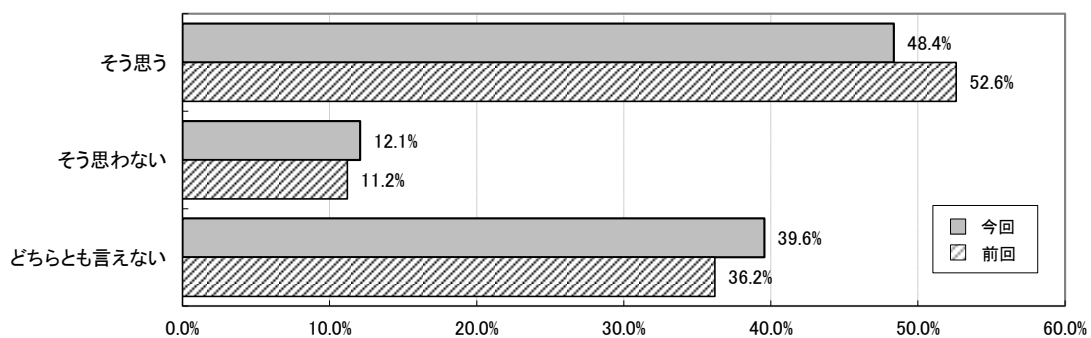
<選択肢>

- 1 そう思う
- 2 そう思わない
- 3 どちらとも言えない

<単純集計>

「そう思う」が48.4%と最も多くなっている。

前回と比較すると「そう思う」が4.2ポイント減少している。一方、「そう思わない」が0.9ポイント、「どちらとも言えない」が3.4ポイント増加している。



(今回: N=3,064 前回: N=3,083)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「そう思う」が最も多く男性は50.6%、女性は47.0%となっている。次いで、男女ともに「どちらとも言えない」が多く男性は36.5%、女性は41.5%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

子どもがいる人は「そう思う」が最も多く、次いで「どちらとも言えない」が多くなっている。子どもがいない人は「どちらとも言えない」が最も多く、次いで「そう思う」が多くなっている。

	そう思う	そう思わない	どちらとも言えない
男性 (N=1,312)	50.6%	12.9%	36.5%
女性 (N=1,693)	47.0%	11.5%	41.5%
就学前の子ども (N= 336)	53.0%	17.9%	29.2%
小・中学生の子ども (N= 329)	55.3%	9.7%	35.0%
高校生以上の子ども (N=1,735)	49.7%	12.2%	38.2%
子どもはいない (N= 561)	37.4%	9.8%	52.8%

問 10 行政（国・県・市町）は、どのような子育て支援の取り組みを充実させるべきだと考えますか。 （○は5つまで）

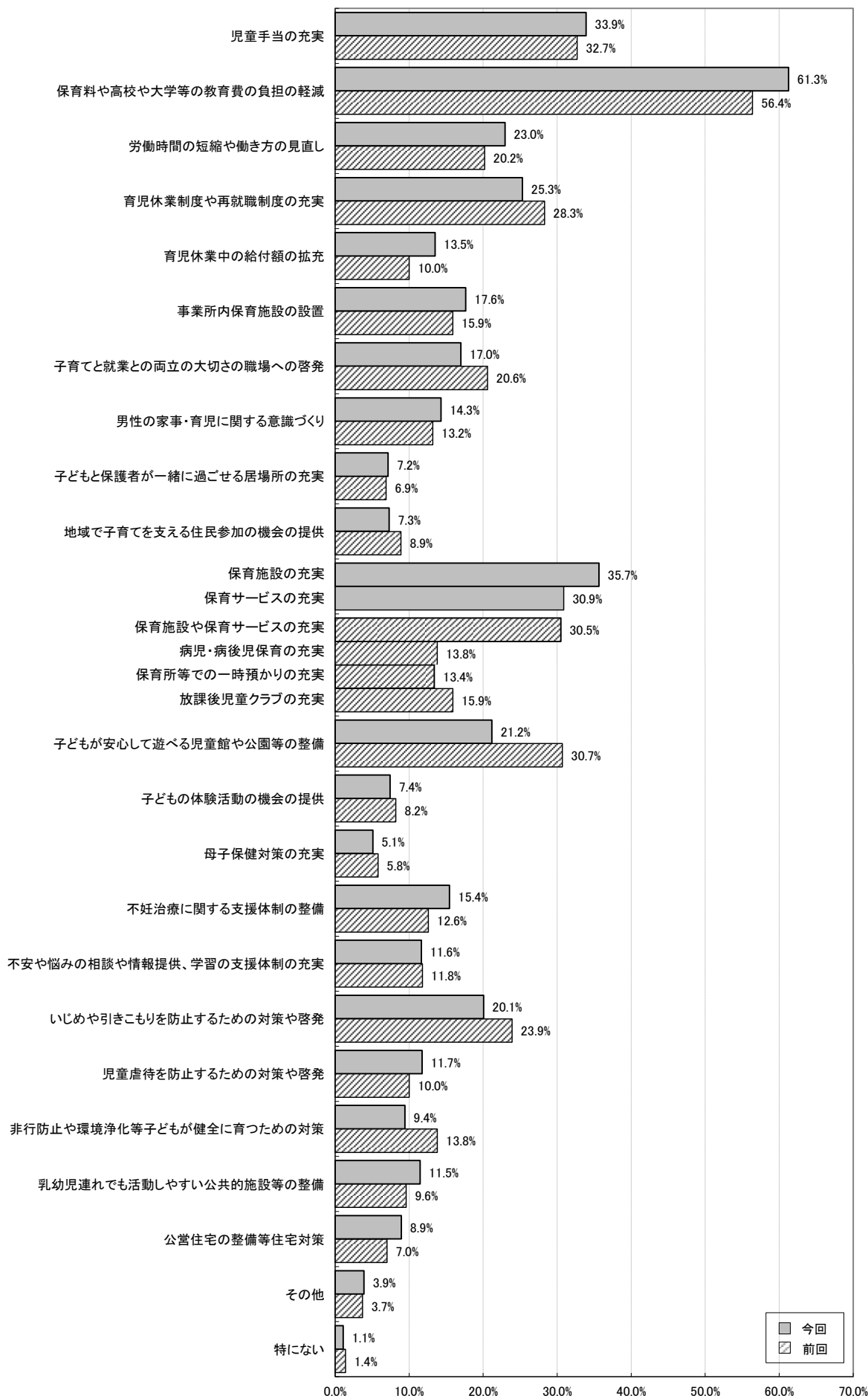
<選択肢>

1 児童手当の充実	14 子どもの体験活動の機会の提供
2 保育料や高校・大学等の教育費の負担の軽減	15 母子保健対策の充実
3 労働時間の短縮や働き方の見直し	16 不妊治療に関する医療保険適用の拡大など不妊治療に関する支援体制の整備
4 育児休業制度や再就職制度の充実	17 妊娠・出産・子育てについての不安や悩みの相談や情報提供、学習の支援体制の充実
5 育児休業中の給付額の拡充	18 いじめや引きこもりを防止するための対策や啓発
6 事業所内保育施設の設置	19 児童虐待を防止するための対策や啓発
7 子育てと就業との両立の大切さの職場への啓発	20 非行防止や環境浄化等子どもが健全に育つための対策
8 男性の家事・育児に関する意識づくり	21 乳幼児連れでも活動しやすい公共的施設等（民間施設を含む）の整備
9 つどいの広場など、低年齢の子どもと保護者が一緒に過ごせる居場所の充実	22 子育て世帯が優先的に入居できるような公営住宅の整備等住宅対策
10 地域で子育てを支える住民参加の機会の提供	23 その他（具体的
11 保育施設（保育園・認定こども園など）の充実	24 特にな
12 保育サービス（病児保育、一時預り、放課後児童クラブなど）の充実	
13 子どもが安心して遊べる児童館や公園等の整備	

<単純集計>

「保育料や高校・大学等の教育費の負担の軽減」が61.3%と最も多く、次いで「保育施設（保育園・認定こども園など）の充実」が35.7%と多くなっている。

前回と比較すると「保育料や高校・大学等の教育費の負担の軽減」は4.9ポイント増加している。一方、「子どもが安心して遊べる児童館や公園等の整備」が9.5ポイント、「いじめや引きこもりを防止するための対策や啓発」が3.8ポイント、「非行防止や環境浄化等子どもが健全に育つための対策」が4.4ポイント減少している。



※前回調査の「保育施設や保育サービスの充実」、「病児・病後児保育の充実」、「保育所等での一時預かりの充実」、「放課後児童クラブの充実」は、今回調査で「保育施設の充実」、「保育サービスの充実」として調査を行った。(今回:N=3,101 前回:N=3,091)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「保育料や高校や大学等の教育費の負担の軽減」が最も多く男性は 68.2%、女性は 55.2%となっている。

次いで男性は「児童手当の充実」が多く 41.1%、女性は「保育施設の充実」が多く 34.8%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

子どもの年代別では、「児童手当の充実」は当事者世代である「就学前の子ども」、「小・中学生の子ども」がいる人が多く概ね 50.0%となっている。「保育料や高校・大学等の教育費の負担の軽減」は「小・中学生の子ども」がいる人が最も多く 81.0%、「労働時間の短縮や働き方の見直し」は「就学前の子ども」がいる人が最も多く 29.2%、「育児休業制度や再就職制度の充実」は「高校生以上の子ども」がいる人が最も多く 28.5%となっている。

	児童手当の充実	保育料や高校や大学等の教育費の負担の軽減	労働時間の短縮や働き方の見直し	育児休業制度や再就職制度の充実	育児休業中の給付額の拡充	事業所内保育施設の設置	子育てと就業との両立の大切さの職場への啓発
男性 (N=1,328)	41.1%	68.2%	21.2%	24.1%	14.9%	17.2%	15.8%
女性 (N=1,716)	28.4%	55.2%	24.5%	26.3%	12.5%	17.9%	17.7%
就学前の子ども (N= 336)	48.5%	67.0%	29.2%	16.1%	12.2%	12.2%	14.6%
小・中学生の子ども (N= 337)	49.0%	81.0%	21.7%	15.1%	7.7%	13.1%	12.2%
高校生以上の子ども (N=1,752)	29.3%	59.8%	18.6%	28.5%	12.2%	18.9%	18.4%
子どもはいない (N= 571)	32.4%	48.3%	35.4%	26.8%	23.5%	18.7%	14.5%
	男性の家事・育児に関する意識づくり	子どもと保護者が一緒に過ごせる居場所の充実	地域で子育てを支える住民参加の機会の提供	保育施設の充実	保育サービスの充実	子どもが安心して遊べる児童館や公園等の整備	子どもの体験活動の機会の提供
男性 (N=1,328)	9.3%	6.2%	8.0%	37.3%	27.6%	18.5%	7.9%
女性 (N=1,716)	18.2%	7.9%	7.1%	34.8%	33.8%	23.4%	7.2%
就学前の子ども (N= 336)	14.6%	7.4%	2.1%	34.8%	32.4%	36.3%	10.1%
小・中学生の子ども (N= 337)	16.6%	6.8%	4.5%	25.5%	30.3%	25.2%	11.9%
高校生以上の子ども (N=1,752)	14.2%	7.0%	8.3%	37.6%	32.2%	19.7%	6.3%
子どもはいない (N= 571)	14.2%	6.8%	8.4%	36.4%	27.7%	14.4%	4.7%
	母子保健対策の充実	不妊治療に関する支援体制の整備	不安や悩みの相談や情報提供、学習の支援体制の充実	いじめや引きこもりを防止するための対策や啓発	児童虐待を防止するための対策や啓発	非行防止や環境浄化等子どもが健全に育つための対策	乳幼児連れでも活動しやすい公共的施設等の整備
男性 (N=1,328)	5.7%	11.3%	10.1%	20.9%	9.4%	8.7%	9.1%
女性 (N=1,716)	4.4%	19.2%	12.8%	19.3%	13.8%	9.8%	13.2%
就学前の子ども (N= 336)	6.5%	13.7%	8.3%	12.8%	6.3%	8.3%	22.6%
小・中学生の子ども (N= 337)	3.6%	16.9%	7.4%	18.7%	12.5%	7.1%	9.8%
高校生以上の子ども (N=1,752)	4.7%	14.2%	12.9%	22.9%	12.0%	11.9%	9.2%
子どもはいない (N= 571)	6.5%	20.5%	11.9%	17.0%	14.2%	4.9%	11.4%
	公営住宅の整備等住宅対策	その他	特になし				
男性 (N=1,328)	12.3%	3.8%	1.5%				
女性 (N=1,716)	6.5%	3.8%	0.7%				
就学前の子ども (N= 336)	8.3%	5.7%	0.6%				
小・中学生の子ども (N= 337)	8.0%	4.7%	-				
高校生以上の子ども (N=1,752)	10.3%	3.1%	0.9%				
子どもはいない (N= 571)	5.6%	4.6%	2.5%				

問11 あなたは、次のa～eの子育て支援サービスを知っていますか。（各々○は1つずつ）

<選択肢>

		利用したことがある	知っている (利用したことはない)	知らない 聞いたことはあ るが詳しくは知 らない	知らない
a.ファミリー・サポート・センター	→	1	2	3	4
b.一時預かり事業	→	1	2	3	4
c.放課後児童クラブ	→	1	2	3	4
d.地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター、つどいの広場など）	→	1	2	3	4
e.淡海子育て応援団	→	1	2	3	4

<単純集計>

「利用したことがある」では、「地域子育て支援拠点事業」が12.0%と最も多くなっている。

「知っている」では、「放課後児童クラブ」が54.9%と半数以上と多くなっている。

「知らない」では、「淡海子育て応援団」が79.7%と最も多く、次いで「ファミリーサポートセンター」が62.4%と多くなっている。

	利用したことがある	知っている	詳しくは知らない	知らない
a.ファミリーサポートセンター (N=2,933)	1.6%	17.9%	18.0%	62.4%
b.一時預かり事業 (N=2,936)	4.0%	27.7%	26.9%	41.4%
c.放課後児童クラブ (N=2,949)	9.6%	54.9%	18.5%	17.0%
d.地域子育て支援拠点事業 (N=2,914)	12.0%	26.3%	26.7%	35.0%
e.淡海子育て応援団 (N=2,926)	2.5%	7.1%	10.7%	79.7%

<クロス集計>

●子どもの年代別クロス集計

「就学前の子ども」がいる人で「利用したことがある」が最も多かった事業は、「地域子育て支援拠点事業」が 50.9%、次いで「一時預かり事業」が 16.1%である。一方、最も低かった事業は、「ファミリーサポートセンター」が 4.2%である。

「ファミリーサポートセンター」と「淡海子育て応援団」は、「就学前の子ども」がいる人でも「知らない」が他の事業に比べ多く、「ファミリーサポートセンター」が 39.3%、「淡海子育て応援団」が 68.3%と他の事業に比べ認知度が低い状況である。

		利用したことがある	知っている	詳しくは知らない	知らない
a.ファミリーサポートセンター	就学前の子ども (N= 336)	4.2%	37.2%	19.3%	39.3%
	小・中学生の子ども (N= 332)	3.6%	32.8%	17.2%	46.4%
	高校生以上の子ども (N=1,631)	1.1%	14.0%	20.2%	64.7%
	子どもはいない (N= 547)	0.4%	8.6%	11.0%	80.1%
b.一時預かり事業	就学前の子ども (N= 336)	16.1%	46.7%	20.8%	16.4%
	小・中学生の子ども (N= 332)	9.0%	36.4%	31.3%	23.2%
	高校生以上の子ども (N=1,630)	2.1%	24.1%	28.4%	45.4%
	子どもはいない (N= 551)	-	21.1%	24.7%	54.3%
c.放課後児童クラブ	就学前の子ども (N= 332)	12.0%	57.2%	19.9%	10.8%
	小・中学生の子ども (N= 335)	28.1%	55.8%	10.4%	5.7%
	高校生以上の子ども (N=1,642)	7.1%	58.5%	18.6%	15.8%
	子どもはいない (N= 553)	3.3%	44.5%	21.7%	30.6%
d.地域子育て支援拠点事業	就学前の子ども (N= 334)	50.9%	24.6%	14.4%	10.2%
	小・中学生の子ども (N= 330)	27.9%	34.8%	18.2%	19.1%
	高校生以上の子ども (N=1,614)	4.8%	27.4%	32.8%	35.0%
	子どもはいない (N= 549)	0.7%	19.7%	20.9%	58.7%
e. 淡海子育て応援団	就学前の子ども (N= 334)	10.2%	11.1%	10.5%	68.3%
	小・中学生の子ども (N= 332)	6.9%	14.8%	17.5%	60.8%
	高校生以上の子ども (N=1,620)	0.7%	5.3%	10.6%	83.4%
	子どもはいない (N= 551)	-	5.3%	6.4%	88.4%

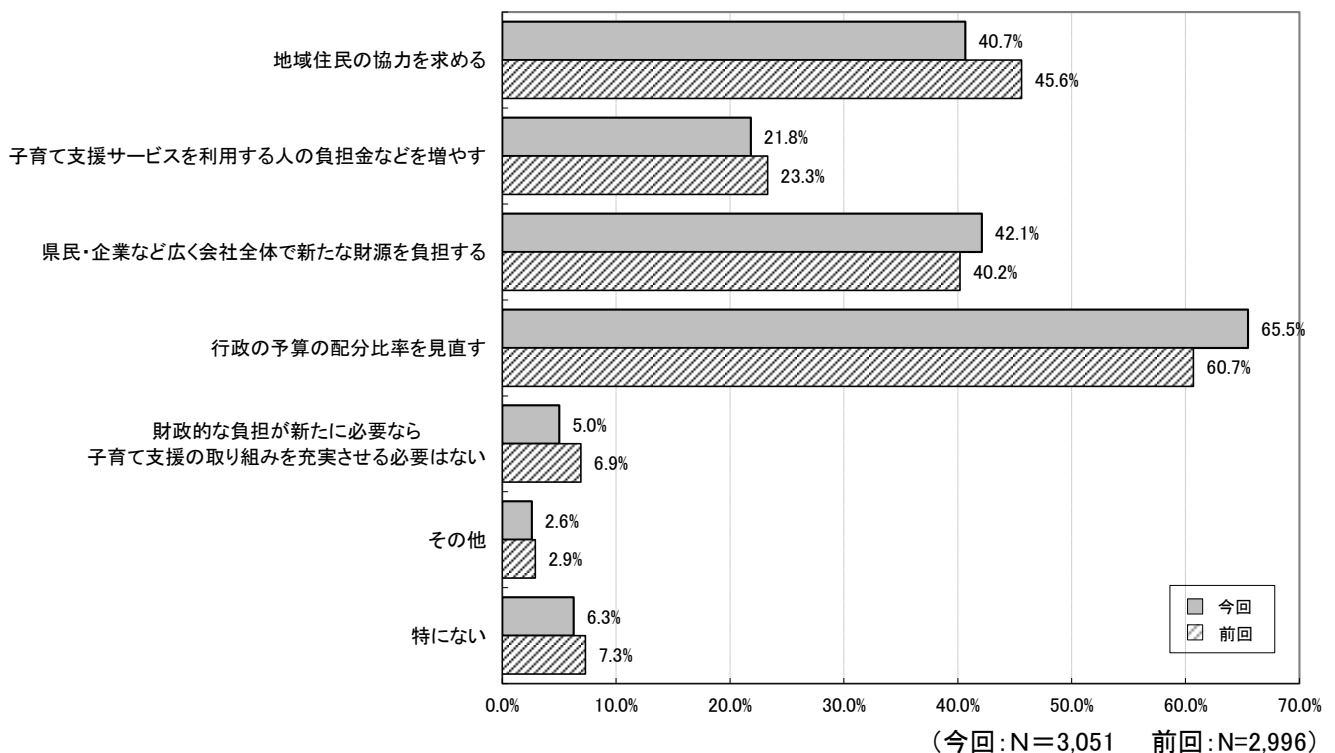
問 12 子育て支援の取り組みを充実するために必要な財源等に関し、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は3つまで)

<選択肢>

- 1 地域住民の協力（ボランティア活動などの人的支援）を求める
- 2 子育て支援サービスを利用する人の負担金などを増やす
- 3 県民・企業など広く社会全体で新たな財源を負担する
- 4 行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する
- 5 財政的な負担が新たに必要なら子育て支援の取り組みを充実させる必要はない
- 6 その他（具体的に)
- 7 特にない

<単純集計>

「行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する」が65.5%で最も多く、次いで「県民・企業など広く社会全体で新たな財源を負担する」が42.1%と多くなっている。前回と比較すると「行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する」は4.8ポイント増加している。一方、「地域住民の協力を求める」は4.9ポイント、「子育て支援サービスを利用する人の負担金などを増やす」は1.5ポイント減少している。



<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する」が最も多く男性は68.7%、女性は62.8%となっている。

次いで男性は「県民・企業など広く社会全体で新たな財源を負担する」が多く46.2%、女性は「地域住民の協力を求める」が多く41.4%となっている。

●年代別クロス集計

すべての年代で「行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する」が最も多くなっている。

次いで、18歳～20歳代から60歳代で「県民・企業など広く社会全体で新たな財源を負担する」、70歳代以上は「地域住民の協力を求める」が多くなっている。

	地域住民の協力を求める	子育て支援サービスを利用する人の負担金などを増やす	県民・企業など広く社会全体で新たな財源を負担する	行政の予算の配分比率を見直し、子育て支援の取り組みの財源を確保する	財政的な負担が新たに必要なら子育て支援の取り組みを充実させる必要はない	その他	特になし
男性 (N=1,313)	40.0%	23.9%	46.2%	68.7%	5.3%	2.7%	5.4%
女性 (N=1,679)	41.4%	20.3%	38.9%	62.8%	4.9%	2.2%	6.9%
18歳～20歳代 (N= 216)	30.6%	28.2%	44.9%	66.7%	1.9%	1.9%	30.6%
30歳代 (N= 367)	28.6%	20.4%	32.7%	65.1%	6.8%	6.0%	28.6%
40歳代 (N= 551)	35.6%	18.5%	38.3%	63.0%	7.3%	2.4%	35.6%
50歳代 (N= 520)	39.8%	22.5%	41.3%	64.0%	6.2%	1.9%	39.8%
60歳代 (N= 697)	45.6%	21.4%	50.6%	68.6%	3.2%	2.3%	45.6%
70歳以上 (N= 668)	50.1%	23.1%	40.9%	65.4%	4.5%	2.1%	50.1%

問 13 子育てに関する情報の主な入手先はどれだと思いますか。(〇は3つまで)

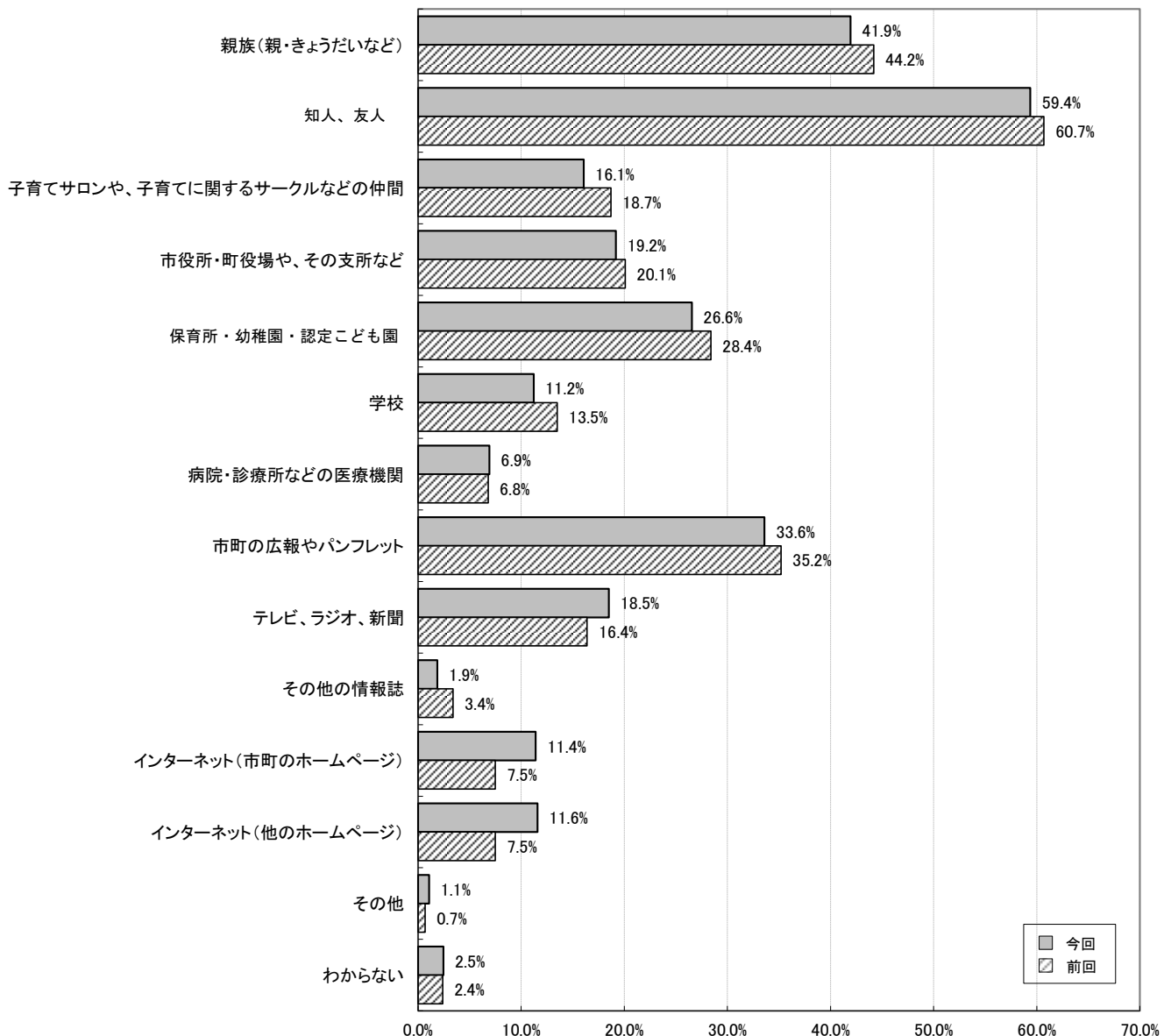
<選択肢>

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 親族(親・きょうだいなど) | 8 市町の広報やパンフレット |
| 2 知人、友人 | 9 テレビ、ラジオ、新聞 |
| 3 子育てサロンや、子育てに関するサークルなどの仲間 | 10 その他の情報誌 |
| 4 市役所・町役場や、その支所など | 11 インターネット(市町のホームページ) |
| 5 保育所・幼稚園・認定こども園 | 12 インターネット(他のホームページ) |
| 6 学校 | 13 その他(具体的に) |
| 7 病院・診療所などの医療機関 | 14 わからない |

<単純集計>

「知人、友人」が59.4%で最も多く、次いで「親族(親・きょうだいなど)」が41.9%と多くなっている。

前回と比較すると「テレビ、ラジオ、新聞」、「インターネット」が増加しているが、その他の選択肢では減少している。



(今回:N=3,092 前回:N=3,092)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「知人、友人」が最も多く、男性は54.3%、女性は63.7%、次いで、男女ともに「親族（親・きょうだいなど）」が多く、男性は41.0%、女性は41.9%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

就学前の子どもがいる人は「知人、友人」が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・認定こども園」が多くなっている。小・中学生の子どもがいる人は「知人、友人」が最も多く、次いで「親族（親・きょうだいなど）」が多くなっている。

	親族(親・きょうだいなど)	知人、友人	子育てサロンや、子育てに関するサークルなどの仲間	市役所・町役場や、その支所など	保育所・幼稚園・認定こども園	学校	病院・診療所などの医療機関
男性 (N=1,321)	41.0%	54.3%	12.3%	21.3%	25.4%	14.8%	7.1%
女性 (N=1,712)	41.9%	63.7%	18.6%	17.5%	27.9%	8.4%	7.0%
就学前の子ども (N= 334)	36.5%	74.0%	10.8%	12.9%	48.5%	9.6%	7.8%
小・中学生の子ども (N= 335)	34.9%	69.9%	18.8%	11.3%	22.7%	31.0%	3.6%
高校生以上の子ども (N=1,747)	38.9%	53.9%	17.6%	22.7%	25.9%	9.4%	6.1%
子どもはいない (N= 569)	56.6%	63.4%	12.0%	15.5%	18.1%	7.0%	11.4%
	市町の広報やパンフレット	テレビ、ラジオ、新聞	その他の情報誌	インターネット(市町のホームページ)	インターネット(他のホームページ)	その他	わからない
男性 (N=1,321)	31.9%	22.3%	2.0%	12.8%	12.1%	0.7%	2.2%
女性 (N=1,712)	34.9%	15.9%	2.7%	10.4%	11.2%	1.3%	2.7%
就学前の子ども (N= 334)	33.8%	6.6%	1.2%	9.6%	22.5%	1.8%	-
小・中学生の子ども (N= 335)	29.6%	14.6%	2.4%	9.0%	13.1%	1.2%	1.8%
高校生以上の子ども (N=1,747)	38.8%	21.4%	3.0%	11.1%	7.3%	0.5%	2.6%
子どもはいない (N= 569)	20.0%	17.8%	1.8%	16.3%	17.0%	1.9%	3.9%

4 地域の子どもへの関わり等についておうかがいします

問 14 (1) あなたは、a. 乳幼児や、b. 小学生、c. 中学生・高校生ぐらゐの地域の子どもと、遊んだり、一緒に活動するような機会がありますか。(各々○は1つずつ)
 (2) 【a~c 各々について (1) で1~3 をお答えの方へ】それはどのような場ですか。(各々○はいくつでも)

<選択肢>

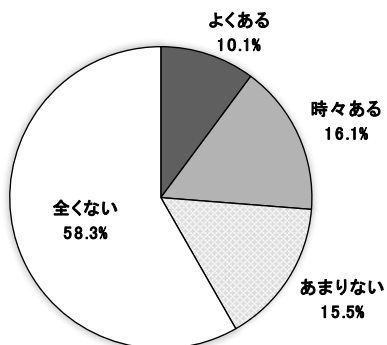
		(1) 遊んだり、一緒に活動するような機会がありますか。				(2) それはどのような場ですか (各々○はいくつでも)						
		1	2	3	4							
		よくある	時々ある	あまりない	全くない	1	2	3	4	5	6	
						近所付き合いで	行事で 地域のまつりやイベント、	3 の交流行事で 保育所や幼稚園、学校など	4 地域のスポーツクラブや 団体活動で	5 親戚の集まりや保護者の 友人・知人の集まりの場で	6 その他	
a. 乳幼児	→	1	2	3	4	→	1	2	3	4	5	6
b. 小学生	→	1	2	3	4	→	1	2	3	4	5	6
c. 中学生や高校生	→	1	2	3	4	→	1	2	3	4	5	6

<単純集計>

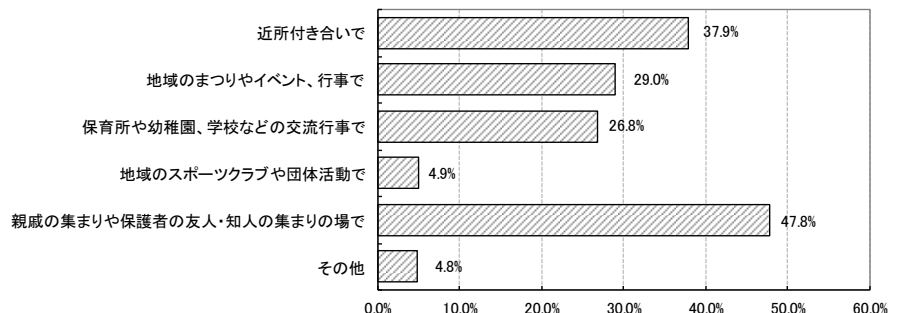
a. 乳幼児と機会があると答えた人は、「よくある」で 10.1%、「時々ある」で 16.1%であり、何らかの機会に乳幼児と接点がある人は 26.2%である。同様に b. 小学生は、「よくある」で 8.9%、「時々ある」で 22.1%であり、接点がある人は 31.0%、c. 中学生や高校生は「よくある」で 4.0%、「時々ある」で 11.9%であり、接点がある人は 15.9%である。

また、これらの機会がどのような場であるかについて、a. 乳幼児は、「親戚の集まりや保護者の友人・知人の集まりの場で」が最も多く 47.8%、b. 小学生は、「地域の祭りやイベント、行事で」が最も多く 45.6%、c. 中学生や高校生も「地域の祭りやイベント、行事で」が最も多く 39.9%である。

a. 乳幼児

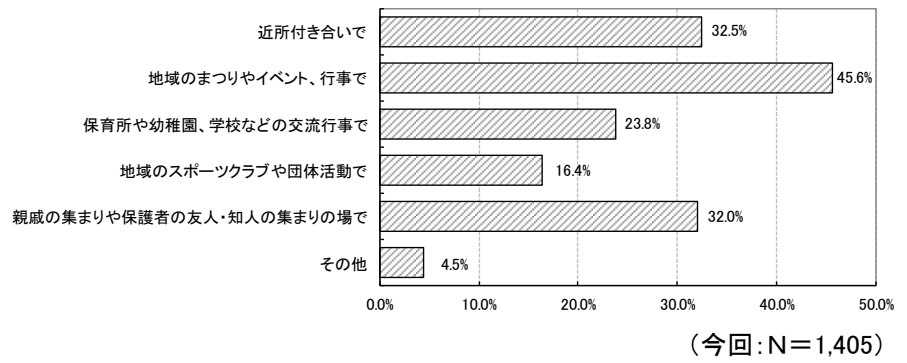
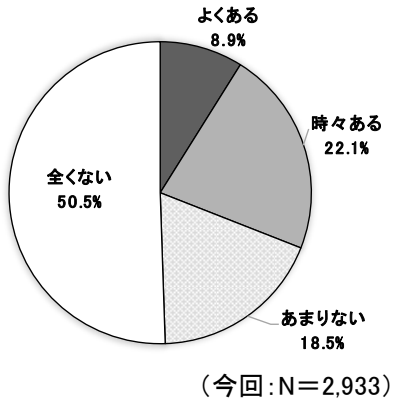


(今回: N=2,839)

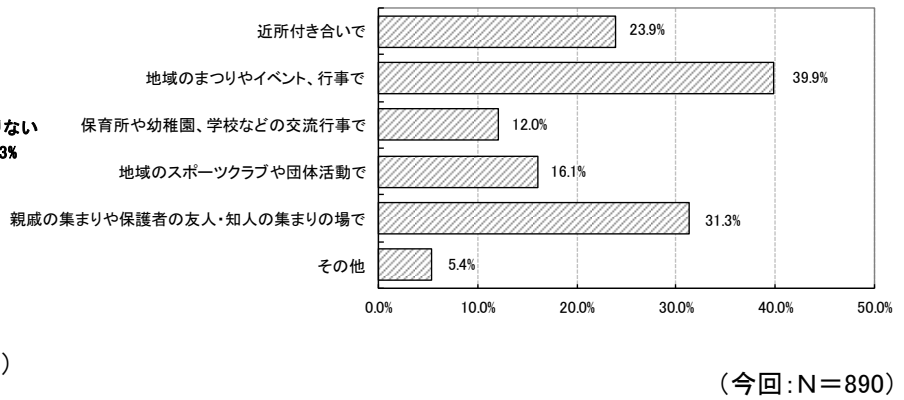
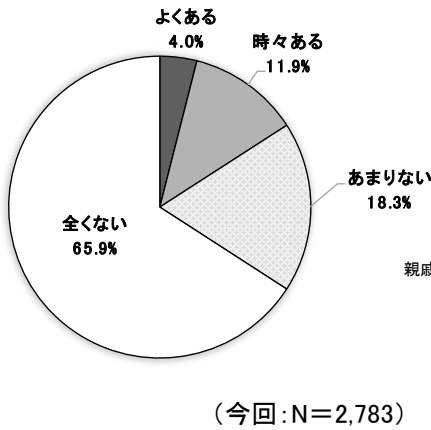


(今回: N=1,120)

b.小学生



c.中学生や高校生



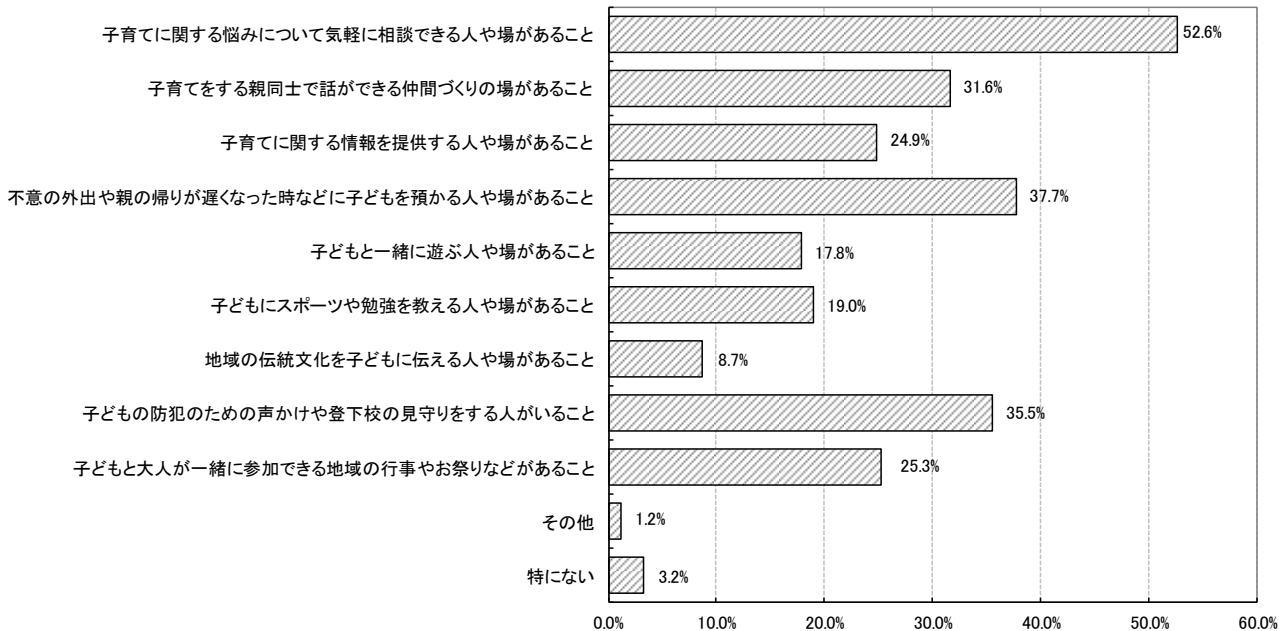
問 15 あなたは、地域で子育てを支えるために、どのようなことが重要だと思いますか。この中から特に重要だと思うものをお選びください。(〇は3つまで)

<選択肢>

- 1 子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること
- 2 子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの場があること
- 3 子育てに関する情報を提供する人や場があること
- 4 不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること
- 5 子どもと一緒に遊ぶ人や場があること
- 6 子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること
- 7 地域の伝統文化を子どもに伝える人や場があること
- 8 子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること
- 9 子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること
- 10 その他(具体的に)
- 11 特にない

<単純集計>

「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が52.6%で最も多く、次いで「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」が37.7%と多くなっている。



(今回: N=3,072)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が最も多く男性は48.7%、女性は55.7%、次いで、男女ともに「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」が多く男性は32.6%、女性は41.9%となっている。

●年代別クロス集計

18歳～20歳代で「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」、「子育てに関する情報を提供する人や場があること」が他の世代より多くなっている。「地域の伝統文化を子どもに伝える人や場があること」、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」で60歳代、70歳代以上が他の世代より多くなっている。

●子どもの年代別クロス集計

すべての年代で「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が最も多くなっている。

	子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場がある	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの場がある	子育てに関する情報を提供する人や場がある	不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場がある	子どもと一緒に遊ぶ人や場がある	子どもにスポーツや勉強を教える人や場がある
男性 (N=1,327)	48.7%	30.8%	25.9%	32.6%	20.0%	23.4%
女性 (N=1,712)	55.7%	32.0%	23.9%	41.9%	15.9%	15.5%
18歳～20歳代 (N= 220)	56.8%	32.3%	31.4%	40.5%	23.2%	18.6%
30歳代 (N= 371)	45.3%	28.6%	19.9%	44.5%	28.8%	21.8%
40歳代 (N= 555)	49.2%	30.3%	24.0%	36.0%	20.0%	21.3%
50歳代 (N= 514)	56.6%	32.9%	27.6%	39.5%	15.2%	19.6%
60歳代 (N= 709)	53.3%	35.1%	27.5%	34.7%	15.7%	18.5%
70歳以上 (N= 697)	53.9%	29.0%	21.4%	36.0%	12.8%	15.6%
就学前の子ども (N= 332)	42.2%	27.4%	20.5%	34.3%	34.9%	22.9%
小・中学生の子ども (N= 339)	45.1%	30.1%	18.9%	34.5%	19.5%	27.7%
高校生以上の子ども (N=1,733)	54.5%	32.8%	25.4%	37.3%	14.6%	17.3%
子どもはいない (N= 569)	57.3%	29.5%	29.3%	42.0%	18.5%	17.0%
	地域の伝統文化を子どもに伝える人や場がある	子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいる	子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがある	その他	特になし	
男性 (N=1,327)	11.4%	29.5%	30.1%	1.9%	3.3%	
女性 (N=1,712)	6.4%	40.5%	21.7%	1.1%	3.1%	
18歳～20歳代 (N= 220)	4.1%	35.0%	23.2%	0.9%	1.8%	
30歳代 (N= 371)	4.6%	36.4%	22.4%	2.2%	2.7%	
40歳代 (N= 555)	6.3%	40.4%	18.0%	1.4%	3.2%	
50歳代 (N= 514)	8.6%	31.7%	22.8%	0.8%	3.5%	
60歳代 (N= 709)	11.7%	34.3%	27.6%	2.1%	1.8%	
70歳以上 (N= 697)	11.3%	35.4%	33.0%	0.9%	5.2%	
就学前の子ども (N= 332)	3.3%	40.7%	28.6%	1.8%	1.8%	
小・中学生の子ども (N= 339)	7.1%	41.9%	18.0%	1.2%	3.5%	
高校生以上の子ども (N=1,733)	9.7%	35.7%	28.9%	1.2%	3.2%	
子どもはいない (N= 569)	8.4%	28.8%	16.9%	2.1%	4.2%	

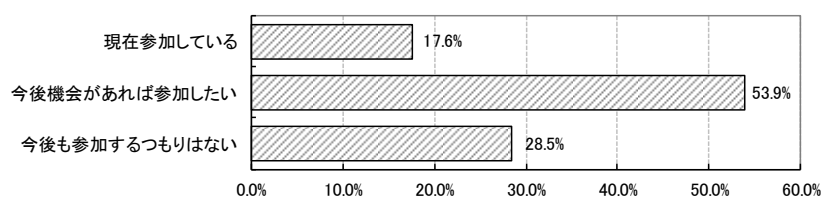
問 16 あなたは、地域における子育てに関する活動の支え手として、上記（問 15 の 1～10）の
 ような場や活動に参加（協力）をしていますか。 (〇は1つだけ)

<選択肢>

- 1 現在参加（協力）している
- 2 現在は参加していないが、今後機会があれば参加（協力）したい
- 3 現在は参加しておらず、今後も参加（協力）するつもりはない

<単純集計>

「今後機会があれば参加したい」が 53.9%で最も多く、次いで「今後も参加するつもりはない」が 28.5%と多くなっている。



(今回: N=3,006)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「今後機会があれば参加したい」が最も多く男性は 54.2%、女性は 53.9%、次いで、男女ともに「今後も参加するつもりはない」が多く男性は 27.5%、女性は 29.2%となっている。

●年代別クロス集計

すべての年代で「今後機会があれば参加したい」が最も多く、なかでも 18 歳～20 歳代が最も多くなっている。次いで 30 歳代は「現在参加している」が多く、18 歳～20 歳代及び 40 歳代以上は「今後も参加するつもりはない」が多くなっている。

●子どもの年代別クロス集計

すべての年代で「今後機会があれば参加したい」が最も多く、なかでも就学前の子どもがいる人が最も多くなっている。

	現在参加している	今後機会があれば参加したい	今後も参加するつもりはない
男性 (N=1,311)	18.2%	54.2%	27.5%
女性 (N=1,662)	17.0%	53.9%	29.2%
18 歳～20 歳代 (N= 220)	3.6%	62.7%	33.6%
30 歳代 (N= 365)	22.5%	58.9%	18.6%
40 歳代 (N= 553)	17.9%	55.2%	26.9%
50 歳代 (N= 496)	15.7%	59.5%	24.8%
60 歳代 (N= 701)	19.8%	55.9%	24.3%
70 歳以上 (N= 663)	18.7%	41.5%	39.8%
就学前の子ども (N= 332)	26.2%	64.5%	9.3%
小・中学生の子ども (N= 333)	27.6%	52.0%	20.4%
高校生以上の子ども (N=1,683)	17.6%	52.8%	29.5%
子どもはいない (N= 565)	6.7%	51.3%	41.9%

5 企業の子育て支援についておうかがいします

問 17 企業の制度や取り組みのうち、子育て中の従業員に役立つと思うものをお答えください。
 子どものいない方、働いていない方も、子育てに役立つと思われるものを選んでください。
 (〇はいくつでも)

<選択肢>

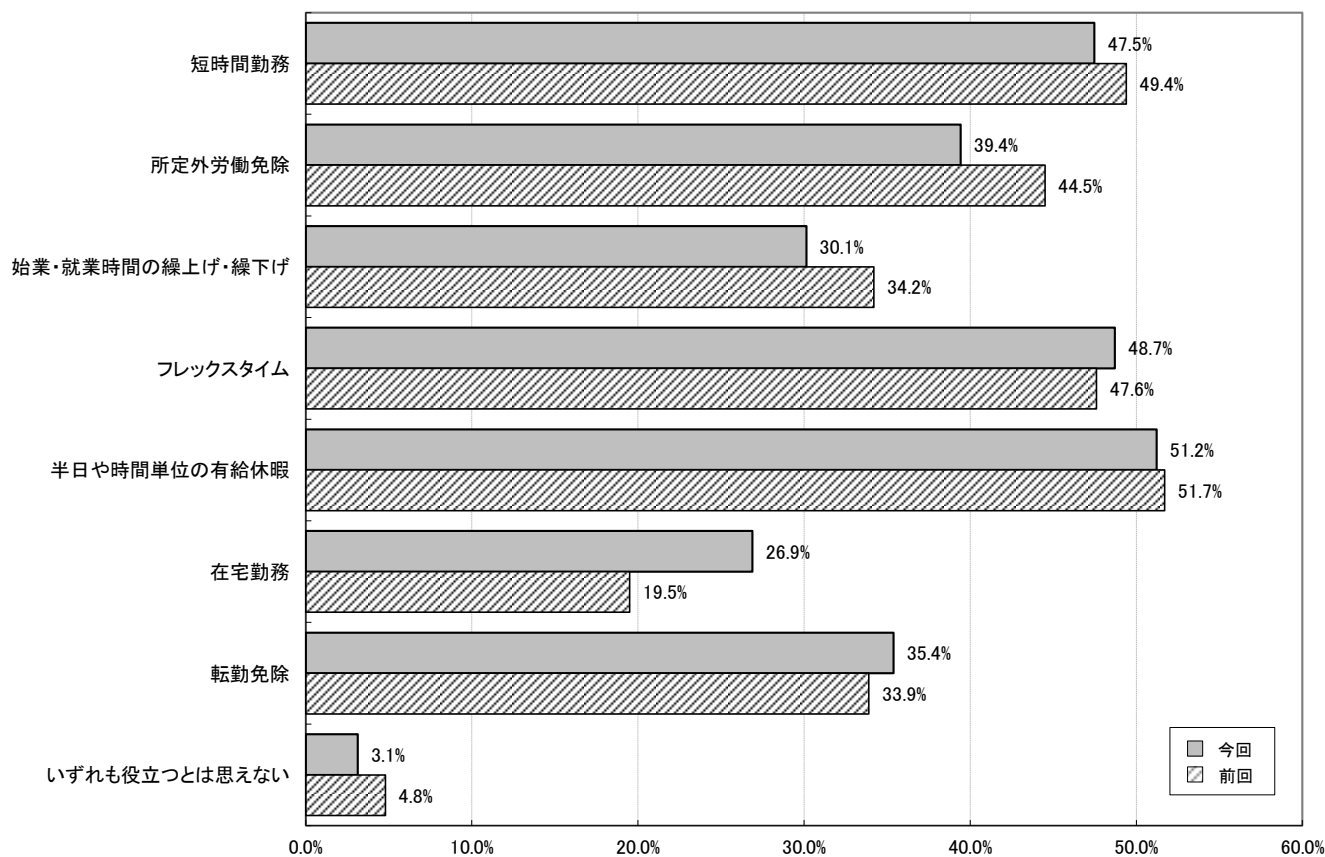
a.労働時間や勤務形態に関連したものについて

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 短時間勤務（所定内労働時間の短縮） | 5 半日や時間単位の有給休暇 |
| 2 所定外労働免除（残業免除） | 6 在宅勤務（週1日などの部分在宅勤務を含む） |
| 3 始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ | 7 転勤免除（勤務地域を限定した勤務制度など） |
| 4 フレックスタイム（出勤・退勤時間を労働者が決める） | 8 いずれも役立つとは思えない |

<単純集計>

「半日や時間単位の有給休暇」が51.2%で最も多く、次いで「フレックスタイム」が48.7%と多くなっている。

前回と比較すると「フレックスタイム」、「在宅勤務」、「転勤免除」が増加しており、その他の選択肢は減少している。特に「在宅勤務」は7.4ポイント増と他の選択肢に比べ差が大きくなっている。



(今回：N=2,993 前回：N=2,452)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男性は「フレックスタイム」が最も多く 49.3%、次いで「半日や時間単位の有給休暇」が多く 48.8%となっている。

女性は「半日や時間単位の有給休暇」が最も多く 53.4%、次いで「短時間勤務」が多く 52.9%となっている。

●夫婦の働き方クロス集計

「夫婦とも働いている」世帯は「短時間勤務」が最も多く 52.5%、次いで「半日や時間単位の有給休暇」が多く 51.5%となっている。

「夫のみ働いている」世帯は「半日や時間単位の有給休暇」が最も多く 53.5%、次いで「フレックスタイム」が多く 53.3%となっている。

「妻のみ働いている」世帯は「短時間勤務」が最も多く 47.4%、次いで「フレックスタイム」が多く 45.4%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

「就学前の子ども」がいる人は「短時間勤務」が最も多く 63.2%、次いで「半日や時間単位の有給休暇」が多く 60.5%となっている。

「小・中学生の子ども」がいる人は「フレックスタイム」が最も多く 57.9%、次いで「短時間勤務」が多く 52.5%となっている。

「高校生以上の子ども」がいる人は「半日や時間単位の有給休暇」が最も多く 49.8%、次いで「フレックスタイム」が多く 46.2%となっている。

	短時間勤務	所定外労働免除	始業・就業時間の繰上げ・繰下げ	フレックスタイム	半日や時間単位の有給休暇	在宅勤務	転勤免除	いずれも役立つとは思えない
男性 (N=1,292)	39.9%	33.7%	28.6%	49.3%	48.8%	25.7%	34.6%	5.1%
女性 (N=1,668)	52.9%	43.9%	31.3%	48.2%	53.4%	27.9%	36.2%	1.7%
夫婦とも働いている (N=1,144)	52.5%	38.3%	34.0%	50.3%	51.5%	30.5%	34.7%	3.7%
夫のみ働いている (N= 557)	49.4%	44.5%	28.2%	53.3%	53.5%	30.7%	39.3%	1.6%
妻のみ働いている (N= 97)	47.4%	43.3%	24.7%	45.4%	41.2%	18.6%	32.0%	5.2%
就学前の子ども (N= 334)	63.2%	41.9%	32.9%	50.9%	60.5%	34.1%	38.6%	2.4%
小・中学生の子ども (N= 335)	52.5%	38.5%	31.0%	57.9%	49.0%	34.9%	41.5%	1.2%
高校生以上の子ども (N=1,672)	43.9%	40.5%	30.1%	46.2%	49.8%	22.7%	33.3%	3.3%

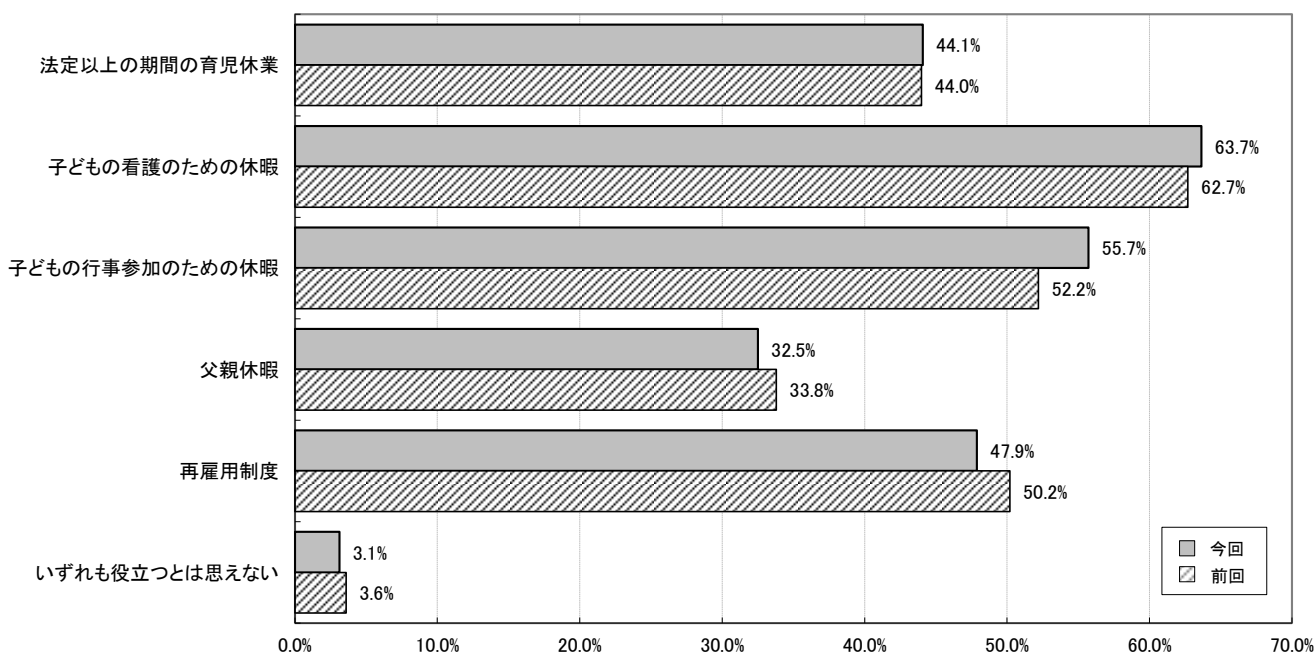
b.休暇制度や再雇用に関連したものについて

1 法定（子どもが1歳になるまで）以上の期間の育児休業	4 父親休暇（子どもの出産に関する休暇）
2 子どもの看護のための休暇	5 再雇用制度（退職者をパート等で優先的に雇用する制度を含む）
3 子どもの行事参加のための休暇	6 いずれも役立つとは思えない

<単純集計>

「子どもの看護のための休暇」が63.7%で最も多く、次いで「子どもの行事参加のための休暇」が55.7%と多くなっている。

前回と比較すると「子どもの看護のための休暇」、「子どもの行事参加のための休暇」が増加しており、「父親休暇」、「再雇用制度」は減少している。



(今回：N=2,999 前回：N=2,443)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男女ともに「子どもの看護のための休暇」が最も多く男性は 54.4%、女性は 71.0%、次いで、男女ともに「子どもの行事参加のための休暇」が多く男性は 49.7%、女性は 60.6%となっている。

●夫婦の働き方別クロス集計

すべての働き方世帯で「子どもの看護のための休暇」が最も多くなっている。

次いで「子どもの行事参加のための休暇」が「夫婦とも働いている」世帯で 58.5%、「夫のみ働いている」世帯で 60.0%と多くなっている。「妻のみ働いている」世帯は「再雇用制度」が多く 54.7%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

「就学前の子ども」がいる人は「子どもの行事参加のための休暇」が最も多く 73.2%、次いで「子どもの看護のための休暇」が多く 68.7%となっている。

「小・中学生の子ども」がいる人は「子どもの行事参加のための休暇」が最も多く 65.8%、次いで「子どもの看護のための休暇」が多く、63.1%となっている。

「高校生以上の子ども」がいる人は「子どもの看護のための休暇」が最も多く 63.7%、次いで「子どもの行事参加のための休暇」が多く 52.7%となっている。

	法定以上の期間の育児休業	子どもの看護のための休暇	子どもの行事参加のための休暇	父親休暇	再雇用制度	いずれも役立つとは思えない
男性 (N=1,295)	39.7%	54.4%	49.7%	31.7%	45.3%	4.8%
女性 (N=1,669)	47.3%	71.0%	60.6%	33.5%	49.9%	1.9%
夫婦とも働いている (N=1,142)	45.6%	63.7%	58.5%	32.7%	46.0%	3.3%
夫のみ働いている (N= 560)	41.6%	69.3%	60.0%	35.9%	45.4%	2.3%
妻のみ働いている (N= 95)	49.5%	67.4%	45.3%	20.0%	54.7%	5.3%
就学前の子ども (N= 332)	42.8%	68.7%	73.2%	42.5%	41.0%	1.8%
小・中学生の子ども (N= 339)	38.1%	63.1%	65.8%	30.1%	38.1%	2.9%
高校生以上の子ども (N=1,672)	45.1%	63.7%	52.7%	30.1%	50.7%	3.0%

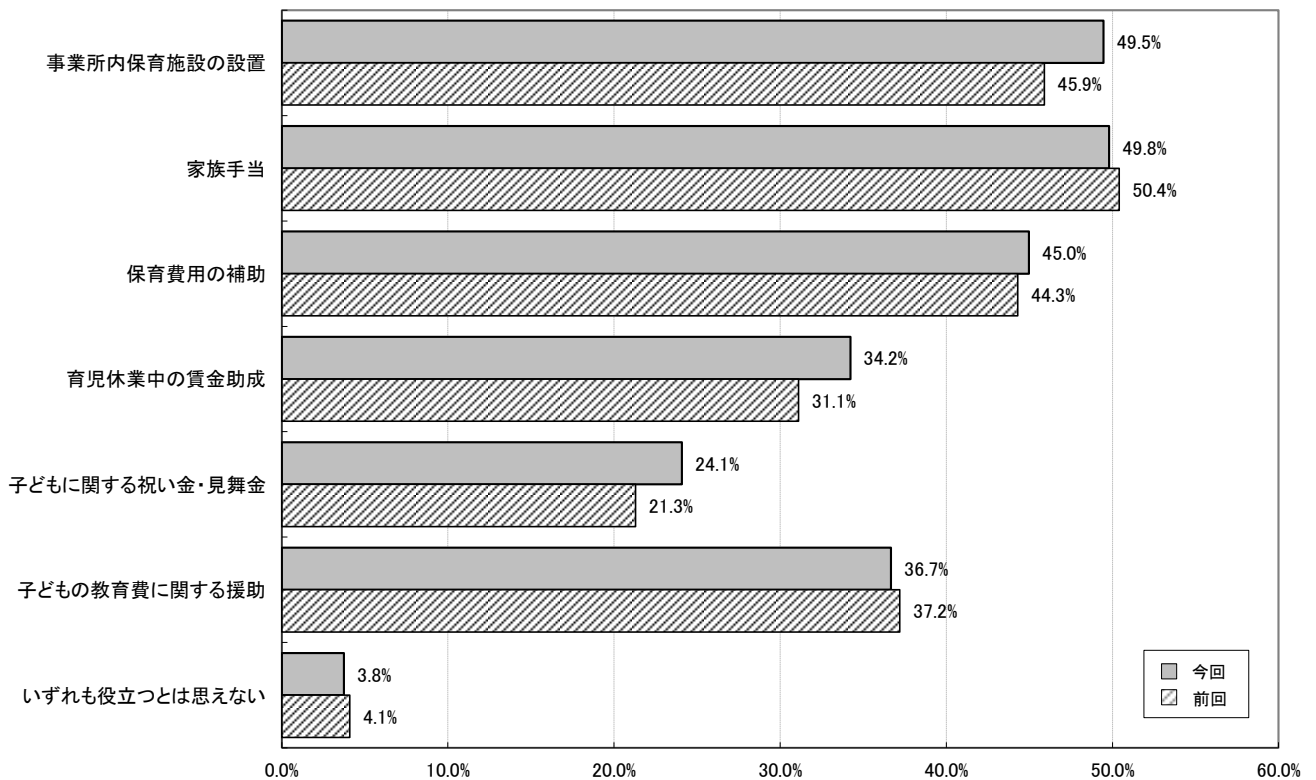
c.福利厚生や経済的援助に関連したものについて

1 事業所内保育施設の設置	5 子どもに関する祝い金・見舞金（出産や入学等）
2 家族手当（子どものいる人を対象とするもの）	6 子どもの教育費に関する援助
3 保育費用の補助	7 いずれも役立つとは思えない
4 育児休業中の賃金助成（企業独自の対応）	

<単純集計>

「家族手当」が49.8%で最も多く、次いで「事業所内保育施設の設置」が49.5%と多くなっている。

前回と比較すると「事業所内保育施設の設置」、「育児休業中の賃金補助」、「子どもに関する祝い金・見舞金」が2ポイント以上増加している。これら以外の項目はほぼ横ばいである。



(今回：N=2,986 前回：N=2,426)

<クロス集計>

●性別クロス集計

男性は「家族手当」が最も多く 51.7%、次いで「事業所内保育施設の設置」が多く 44.1%となっている。女性は「事業所内保育施設の設置」が最も多く 54.3%、次いで「家族手当」が多く 48.5%となっている。

●夫婦の働き方クロス集計

全ての働き方の世帯で「家族手当」が最も多く 50%以上となっている。また、「妻のみ働いている」世帯では同様に「事業所内保育施設の設置」が最も多く 52.6%となっている。

●子どもの年代別クロス集計

「就学前の子ども」がいる人と「小・中学生の子ども」がいる人ともに「家族手当」が最も多く「就学前の子ども」がいる人は 70.0%、「小・中学生の子ども」がいる人は 68.7%、次いで「保育費用の補助」が多く「就学前の子ども」がいる人は 63.3%、「小・中学生の子ども」がいる人は 50.1%となっている。

「高校生以上の子ども」がいる人は「事業所内保育施設の設置」が最も多く 49.9%、次いで「家族手当」が多く 44.7%となっている。

	事業所内保育施設の設置	家族手当	保育費用の補助	育児休業中の賃金助成	子どもに関する祝い金・見舞金	子どもの教育費に関する援助	いずれも役立つとは思えない
男性 (N=1,303)	44.1%	51.7%	43.7%	32.4%	23.9%	36.5%	4.1%
女性 (N=1,652)	54.3%	48.5%	46.2%	36.0%	24.3%	36.7%	3.3%
夫婦とも働いている (N=1,145)	45.5%	54.2%	46.1%	33.4%	25.9%	34.7%	3.7%
夫のみ働いている (N= 558)	53.2%	54.5%	47.8%	33.2%	30.1%	34.8%	2.9%
妻のみ働いている (N= 95)	52.6%	52.6%	45.3%	41.1%	17.9%	41.1%	6.3%
就学前の子ども (N= 330)	50.6%	70.0%	63.3%	34.8%	39.4%	33.3%	1.5%
小・中学生の子ども (N= 339)	41.0%	68.7%	50.1%	23.3%	34.2%	39.5%	0.6%
高校生以上の子ども (N=1,673)	49.9%	44.7%	40.6%	35.3%	18.9%	36.9%	3.9%

6 あなたご自身、および世帯のことについておうかがいします

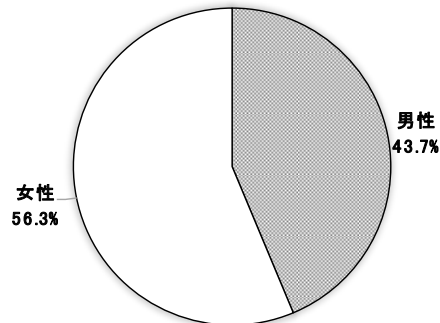
問 18 あなたの性別をお答えください。

<選択肢>

1 男性

2 女性

<単純集計>



(今回 : N=3,080)

問 19 あなたの年齢をお答えください。

<選択肢>

1 18~24歳

7 50~54歳

2 25~29歳

8 55~59歳

3 30~34歳

9 60~64歳

4 35~39歳

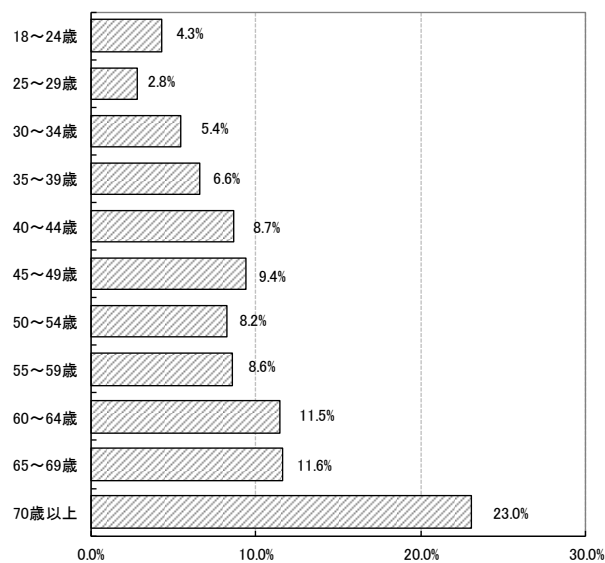
10 65~69歳

5 40~44歳

11 70歳以上

6 45~49歳

<単純集計>



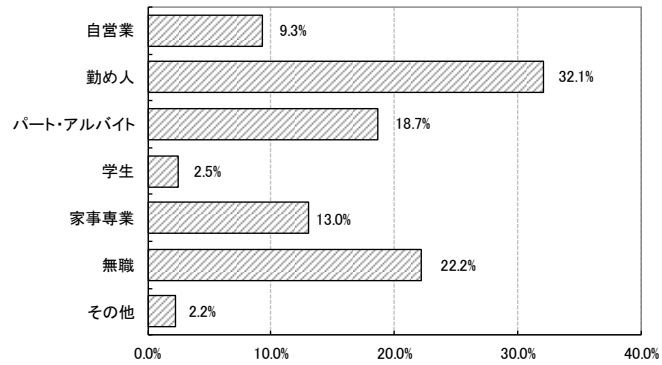
(今回 : N=3,109)

問 20 あなたの職業をお答えください。

<選択肢>

- | | | |
|----------------|--------|-------|
| 1 自営業（農業を含む） | 4 学生 | 7 その他 |
| 2 勤め人（正規社員・職員） | 5 家事専業 | 具体的に |
| 3 パート・アルバイト | 6 無職 | 〔 〕 |

<単純集計>



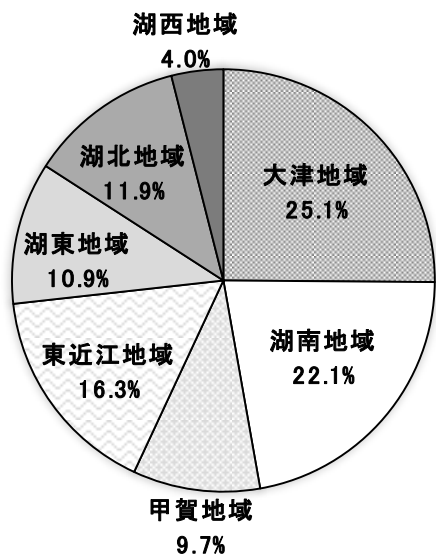
(今回：N=3,099)

問 21 あなたがお住まいの「市・町」をお答えください。

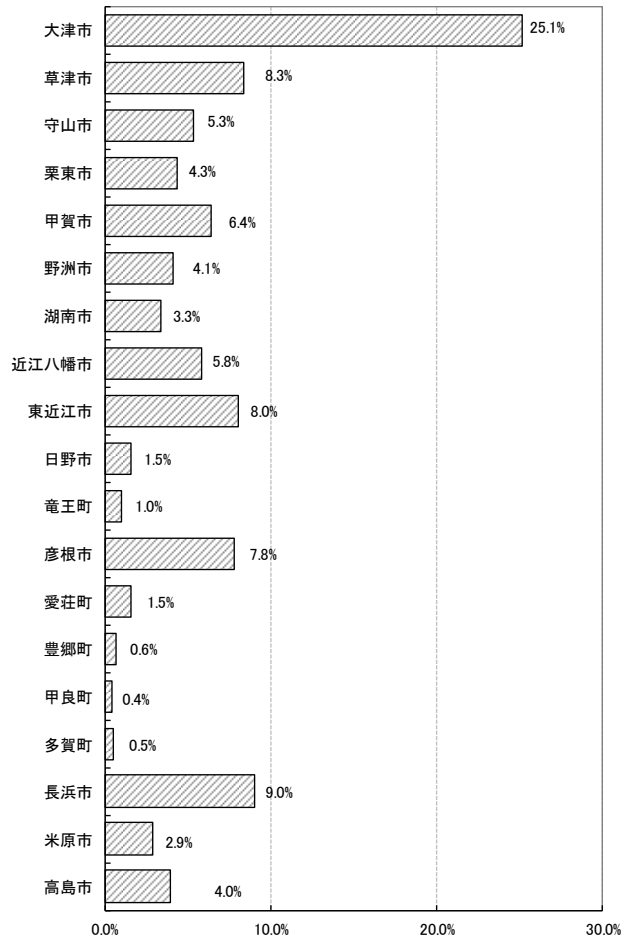
<選択肢>

1 大津市	8 近江八幡市	12 彦根市	17 長浜市
2 草津市	9 東近江市	13 愛荘町	18 米原市
3 守山市	10 日野町	14 豊郷町	19 高島市
4 栗東市	11 竜王町	15 甲良町	
5 甲賀市		16 多賀町	
6 野洲市			
7 湖南市			

<単純集計>



(今回: N=3,105)

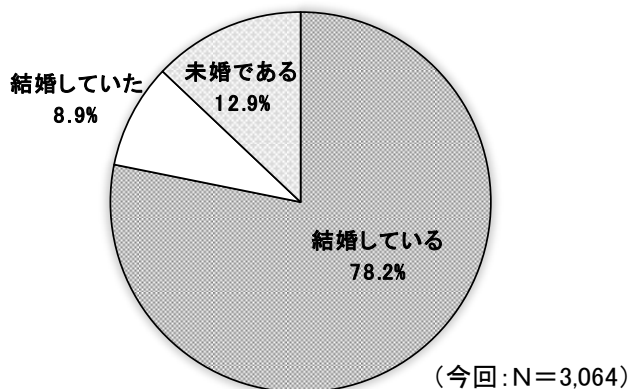


問 22 結婚（事実婚を含む）されていますか。

<選択肢>

- | | |
|------------------------|---------|
| 1 結婚している（配偶者がいる） | 3 未婚である |
| 2 結婚していた（配偶者とは離婚・死別した） | |

<単純集計>



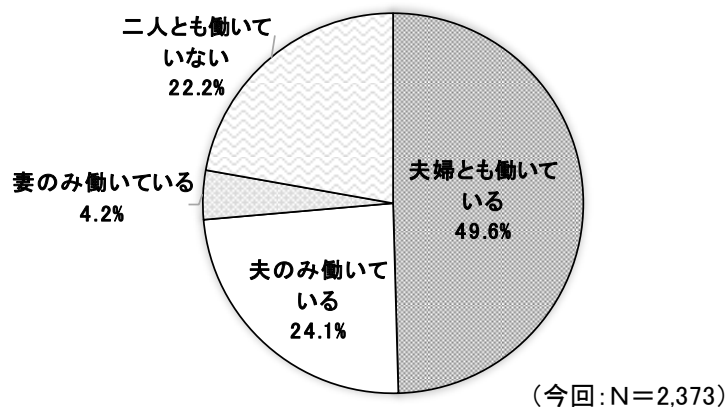
問 23 【問 22 で「1. 結婚している（配偶者がいる）」とお答えの方へ】

あなたと配偶者は、自営業、会社員、パート等を問わず、いわゆる「夫婦共働き」ですか。

<選択肢>

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 夫婦とも働いている（いわゆる共働き） | 3 妻のみ働いている |
| 2 夫のみ働いている | 4 二人とも働いていない |

<単純集計>



問 28 現在お住まいの地域での居住年数は、何年になりますか。

<選択肢>

- 1 一年未満 2 一年～三年未満 3 三年～五年未満 4 五年～十年未満 5 十年以上

<単純集計>

